

令和元年12月18日（水）現在

新学習指導要領の下での学習評価について  
＜説明資料＞

期日：令和元年12月18日（水） 15:00～16:45

会場：群馬県総合教育センター講堂

群馬県教育委員会義務教育課

# I 指導と評価の一体化を目指した学習評価について

## 1 学習評価の改善の基本的な方向性

指摘されている課題

- ・学期末や学年末などの事後での評価に終始してしまうことが多く、評価の結果が児童生徒の具体的な学習改善につながっていない。
- ・現行の「関心・意欲・態度」の観点について、挙手の回数や毎時間ノートをとっているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭されていない。
- ・教師によって評価の方針が異なり、学習改善につながりにくい。
- ・教師が評価のための「記録」に労力を割かれて、指導に注力できない。
- ・相当な労力をかけて記述した指導要録が、次の学年や学校段階において十分に活用されていない。

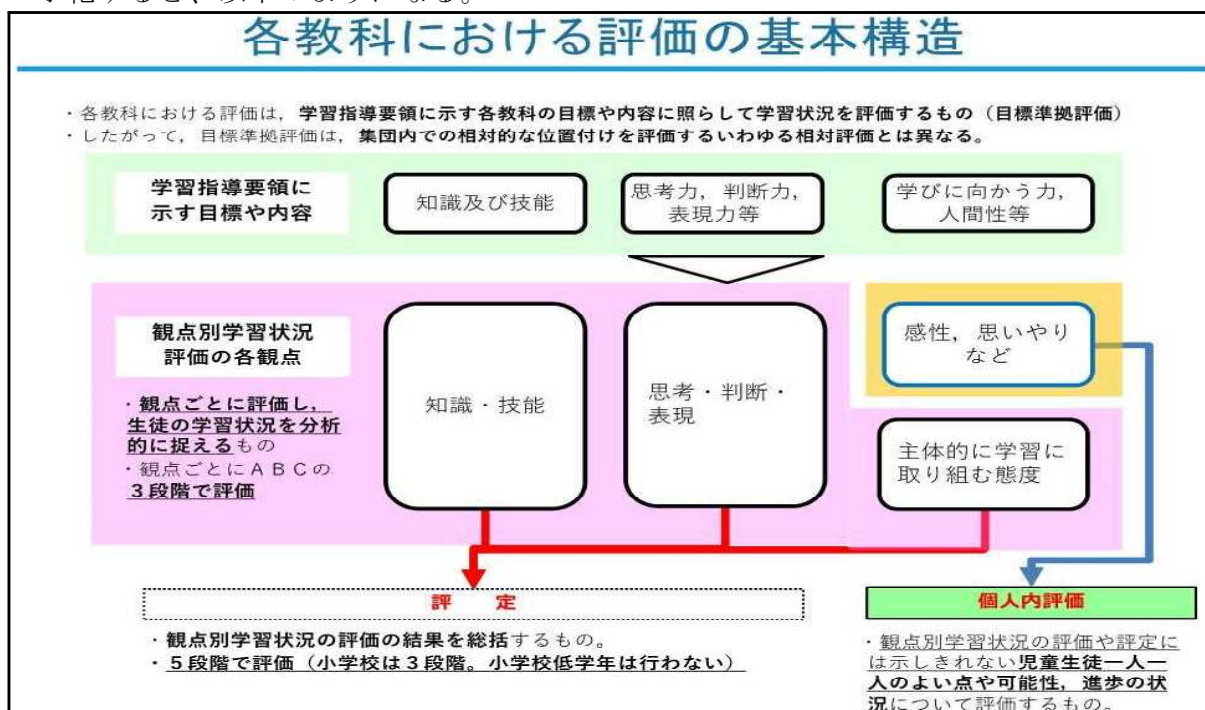


- 学校における働き方改革が喫緊の課題となっていることを踏まえ、次の基本的な考え方に立って、学習評価を真に意味のあるものとするのが重要である。
  - ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
  - ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
  - ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと
- 観点別学習状況の評価の記録に用いる評価については、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場면을精選することが重要である。

\*小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）  
平成31年3月29日 30文科初第1845号より

## 2 平成29年改訂学習指導要領における各教科の学習評価について

学習指導要領の各教科等における目標や内容については、資質・能力の三つの柱に基づいて再整理された。観点別学習状況の評価については、こうした教育目標や内容の再整理を踏まえて、4観点から3観点到整理された。各教科における評価の基本構造を図示化すると、以下ようになる。



\*「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（案）（小学校・中学校）  
令和元年11月 国立教育政策研究所教育課程研究センターより

### 3 指導要録の主な改善点について

文部科学省は、平成31年3月29日付 30文科初第1845号通知により、各設置者による指導要録の様式の決定や各学校の指導要録の参考となるよう、学習評価を行うに当たっての配慮事項、指導要録に記載する事項及び各学校における指導要録作成に当たっての配慮事項等を取りまとめた。(各市町村教育委員会あてに通知済み。)

→ P3参照：指導要録 参考様式(様式2 指導に関する記録)

### 4 観点別学習状況の評価の評定への総括について

令和元年11月 国立教育政策研究所教育課程研究センター 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(案)  
(小学校・中学校) 第1編 第2章 1(6) 観点別学習状況の評価の評定への総括<一部抜粋>

A、B、Cの組合せから評定に総括する場合、各観点とも同じ評価がそろう場合は、小学校については、「BBB」であれば2を基本としつつ、「AAA」であれば3、「CCC」であれば1とするのが適当であると考えられる。中学校については、「BBB」であれば3を基本としつつ、「AAA」であれば5又は4、「CCC」であれば2又は1とするのが適当であると考えられる。それ以外の場合は、各観点のA、B、Cの数の組合せから適切に評定することができるようあらかじめ各学校において決めておく必要がある。

平成31年1月21日 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会 児童生徒の学習評価の在り方について(報告)

3 (2) 観点別学習状況の評価の改善について <一部抜粋>

- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、知識及び技能を習得させたり、思考力、判断力、表現力等を育成したりする場面に関わって、行うものであり、その評価の結果を、知識及び技能の習得や思考力、判断力、表現力等の育成に関わる教師の指導や児童生徒の学習の改善にも生かすことによりバランスのとれた資質・能力の育成を図るという視点が重要である。すなわち、この観点のみを取り出して、例えば挙手の回数など、その形式的態度を評価することは適当ではなく、他の観点に関わる児童生徒の学習状況と照らし合わせながら学習や指導の改善を図ることが重要である。

～途中省略～

- この考え方に基づけば、単元の導入の段階では観点別の学習状況にばらつきが生じるとしても、指導と評価の取組を重ねながら授業を展開することにより、単元末や学期末、学年末の結果として算出される3段階の観点別学習状況の評価については、観点ごとに大きな差は生じないものと考えられる。仮に、単元末や学期末、学年末の結果として算出された評価の結果が「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の各観点について、「CCA」や「AAC」といったばらつきのあるものとなった場合には、児童生徒の実態や教師の授業の在り方などそのばらつきの原因を検討し、必要に応じて、児童生徒への支援を行い、児童生徒の学習や教師の指導の改善を図るなど速やかな対応が求められる。

### 5 その他

小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)(平成31年3月29日付 30文科初第1845号)より

#### 4. 学習評価の円滑な実施に向けた取組について

- (8) 今後、国においても学習評価の参考となる資料を作成することとしているが、都道府県教育委員会等においても、学習評価に関する研究を進め、学習評価に関する参考となる資料を示すとともに、具体的な事例の収集・提示を行うことが重要であること。

様式2 (指導に関する記録)

児童氏名	学校名	区分	学年	1	2	3	4	5	6
	〇〇立〇〇小学校	学級							
		整理番号							

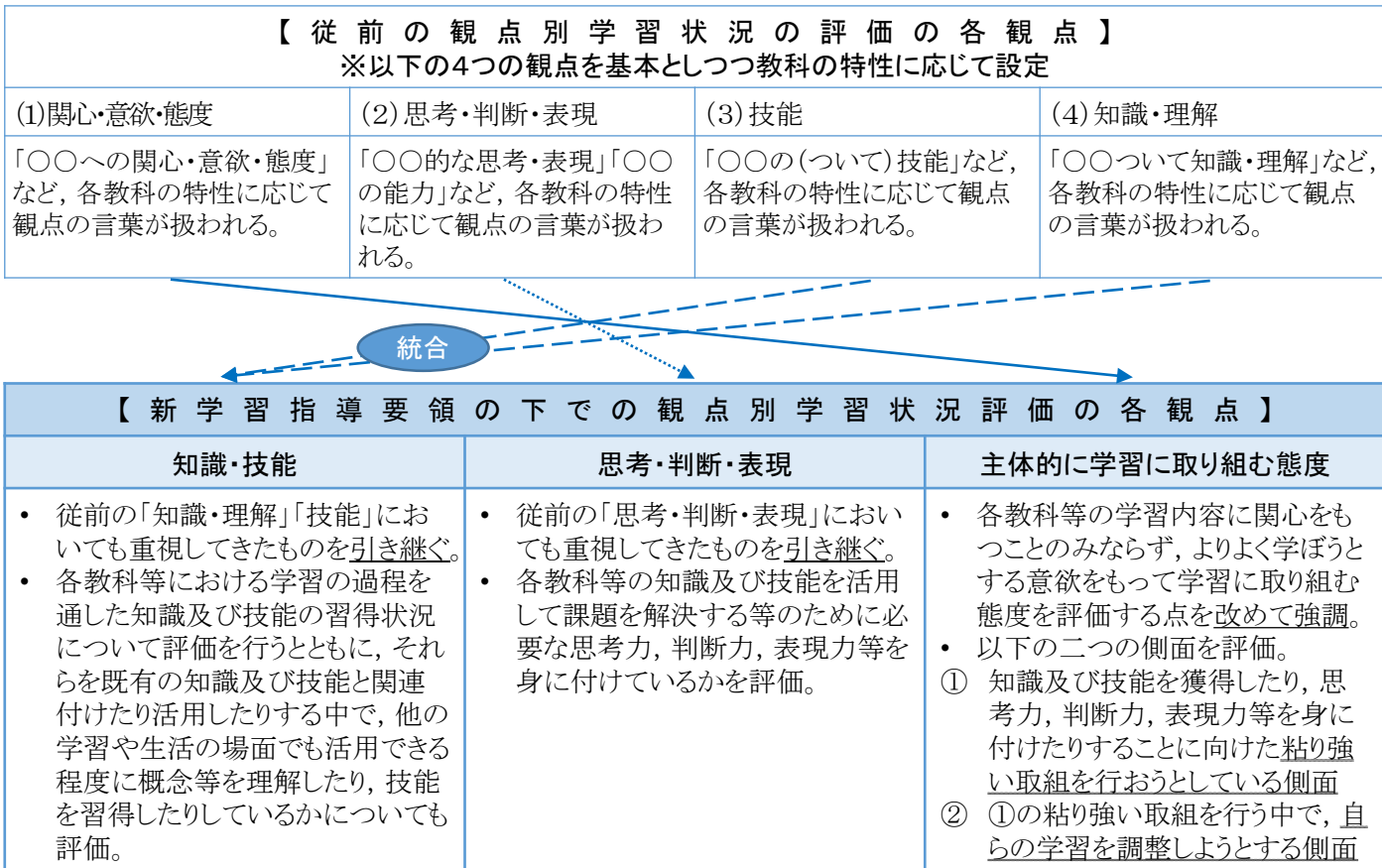
各教科の学習の記録								特別の教科道徳								
教科	観点	学年	1	2	3	4	5	6	学年	学習状況及び道徳性に係る成長の様子						
国語	知識・技能								1							
	思考・判断・表現								2							
	主体的に学習に取り組む態度								3							
社会	知識・技能								4							
	思考・判断・表現								5							
	主体的に学習に取り組む態度								6							
算数	知識・技能								3							
	思考・判断・表現								4							
	主体的に学習に取り組む態度								5							
理科	知識・技能								6							
	思考・判断・表現								外国語活動の記録							
	主体的に学習に取り組む態度							学年				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
生活	知識・技能								3	※外国語活動の記録は、小学校のみです。						
	思考・判断・表現								4							
	主体的に学習に取り組む態度								総合的な学習の時間の記録							
評定							学年	学習活動					観点	評価		
音楽	知識・技能								3							
	思考・判断・表現								4							
	主体的に学習に取り組む態度								5							
図画工作	知識・技能								6							
	思考・判断・表現															
	主体的に学習に取り組む態度															
家庭	知識・技能															
	思考・判断・表現															
	主体的に学習に取り組む態度															
体育	知識・技能								特別活動の記録							
	思考・判断・表現							内容					観点	学年	1	2
	主体的に学習に取り組む態度							学級活動								
外国語	知識・技能								児童会活動							
	思考・判断・表現								クラブ活動							
	主体的に学習に取り組む態度								学校行事							
	評定															



1 従前の観点と新学習指導要領の下での評価の観点の関係について

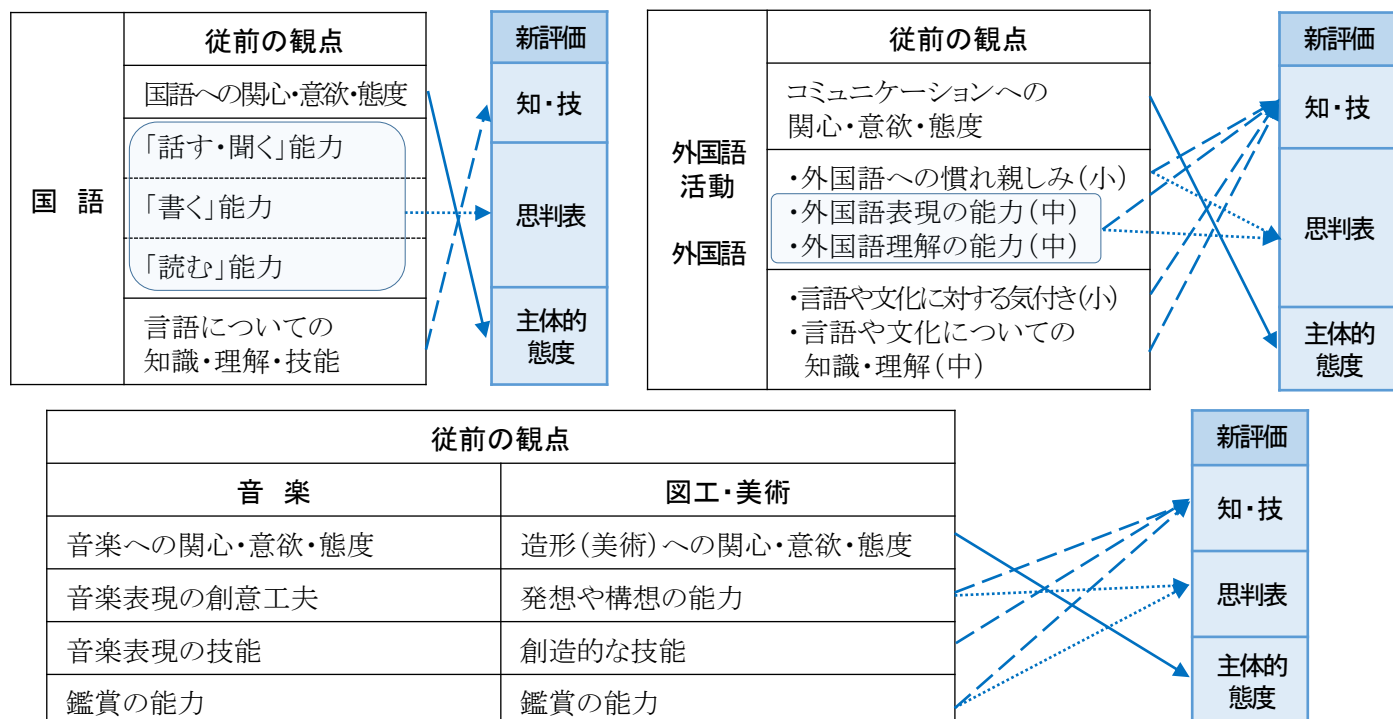
(1) 従前の観点と新学習指導要領の下での評価の観点の基本的な関係

下の図は、従前の観点と新学習指導要領の下での評価の各観点の基本的な関係を示したものです。



(2) 従前の観点から新学習指導要領の下での評価の観点への変更が大きい教科

下記の教科等については、従前の観点の在り方が他教科とは異なります。従前の観点と新学習指導要領の下での評価の各観点との関係について、そのイメージを図として示しました。



※各教科等における「知識」と「技能」の関係や、「主体的に学習に取り組む態度」の具体的な姿など各観点の詳細については、教科等別の資料参照。

## 2 各教科等の「内容のまとめ」と「単元及び題材」の関係について

各学校で行われる評価規準の作成は、各教科等の「内容のまとめごとの評価規準」の考え方を踏まえ、作成することが基本となります。各教科等の「内容のまとめごとの評価規準」は、年度末までに、国立教育政策研究所より示される予定になっています。各教科等における「内容のまとめ」と実際の学習の「単元及び題材」とは、必ずしも、同義はならない場合があるため、評価規準を作成する際には、留意する必要があります。

**「内容のまとめ」とは**  
学習指導要領に示す各教科等の「第2 各学年の目標及び内容 2 内容」の項目等を、そのまとめごとに細分化したり整理したりしたもの。  
※各教科等の学習指導要領参照

### A 「内容のまとめ」＝「単元及び題材」

「内容のまとめ」と「単元及び題材」が同じ大きさの場合は、「内容のまとめごとの評価規準」を「単元及び題材の評価規準」として、置き換えて考えることが可能な教科等もあります。

#### 【例】

小算数 第2学年 「C 測定」時間の単位 ＝ 単元「時刻と時間」  
小理科 第5学年 「A 物質・エネルギー」(3)電流がつくる磁力 ＝ 単元「電流が生み出す力」 など

### B 「内容のまとめ」＞「単元及び題材」

「内容のまとめ」が、複数単元及び題材で構成されるため、「内容のまとめごとの評価規準」の記載事項を基に、それを細分化しつつ具体化して「単元及び題材の評価規準」を設定していきます。

#### 【例】

小社会 第4学年「人々の健康や生活環境を支える事業」＞ 単元「水はどこから」、「ごみの処理と利用」  
小体育 第5学年及び第6学年「E ボール運動」＞ 単元「ゴール型(サッカー)」「ネット型(ソフトバレーボール)」「ベースボール型(ティーボール)」 など

※各教科書の区切り方や各校の指導計画により、単元及び題材の分け方が異なることに留意する必要があります。

国語、音楽、図工(美術)、外国語のように、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力に基づき、その活動に即した教材や活動(言語・表現等)を設定し、単元及び題材を構想する教科等は、各教科で示された「内容のまとめごとの評価規準」を参考にして、その具体化を図ります。(詳細は、教科等別の資料参照)

## 3 単元及び題材の観点別学習状況の評価の進め方について

### 【学習評価の改善の基本的な方向性】(平成31年3月29日付 文部科学省通知)

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣習として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

学習評価の円滑な実施に向けた取組の1つとして、学習評価については、日々の授業の中で児童生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要であり、観点別評価の記録に用いる評価については、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとめごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場면을精選することが重要であることが示されました。

このことから、各教科等の単元及び題材の指導計画を作成する際には、児童生徒の学習状況を記録に残す「**評定に用いる評価**」場면을精選し、位置付けていくこととなります。そして、教師は、記録した評価情報を基に、単元及び題材の観点別学習状況の評価の総括をすることとなります。

評価したことを記録に残す「**評定に用いる評価**」場面以外の時間については、従来と同様に、教師は、学習の目標(ねらい)を達成した児童生徒の学習状況を具体的に想定し、学習活動を通してその姿をみとり、必要があれば指導、支援するなどして、学習状況の改善を図っていきます。

#### 「評定に用いる評価」 (評価したことを記録に残す)

- ・ 評価したことを指導に生かしつつ、評価したことを記録し、評価情報を総括します。
- ・ 毎回の授業ではなく、原則として単元を見通して目標の実現状況が子供の反応から顕著に見られる場면을精選するが、その重点が置かれる場面は、各教科等に特性に応じて異なるため留意する必要があります。

#### 「学習改善につなげる評価(みとり)」 (指導に生かす)

- ・ 児童生徒の学習状況をみとり、必要があれば教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。
- ・ 各単位時間の「ねらい」に即し、児童生徒の学習状況をみとる場面は必ずあります。
- ・ 児童生徒の成長を促し、資質・能力の確かな育成を図る評価を実施することが大切です。

学校における働き方改革が喫緊の課題になっていることも踏まえ、学習評価を真に意味のあるもの(児童生徒の学習改善、教師の指導改善などの「**指導と評価の一体化**」)にするとともに、妥当性や信頼性を確保していくことが、今後も引き続き、重要となります。

指導計画 国語科 第1学年  
 単元名 想像を広げながら読もう 「たぬきの糸車」(全8時間計画)

どのような資質・能力を育成するために、どのような言語活動を行うのが児童に分かるようにする。

単元 の 目 標	(1) 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。 [知識及び技能] (1)ク
	(2)－① 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C(1)イ
	(2)－② 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。 [思考力、判断力、表現力等] C(1)エ
	(3)言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書し、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

- ・指導事項の文言を基本にする。文末は「～できる」。(3)の「学びに向かう力、人間性等」、学年の目標の(3)。
- ・(1)(2)については、時間や指導内容にもよるが、あわせて2～3点が適当。

本単元における言語活動：音読したことを基に内容を伝え合う。(関連：[思考力、判断力、表現力等] C(2)イ)

単元の目標を実現するために適した言語活動(指導事項を指導するための言語活動)

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク 現行の「言語についての知識・理解・技能」 ・文末は「～している」 学習指導要領の指導事項との関連を明確にする	①「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) ②「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) 現行の「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」 ・冒頭は「(領域名)において、」 ・文末は「～している」	①進んで(A)場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し(B)、学習の見通しをもって(C)、音読をして内容を伝えようとしている(D)。 A：粘り強さ(積極的に、進んで、粘り強く等) B：2観点(知識・技能、思考・判断・表現)において、特に粘り強さを発揮してほしい内容 C：自らの学習の調整(見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等) D：当該単元の具体的な言語活動
※単元に位置付けた指導事項の文言を基本とする ※指導事項の一部を用いる場合もある		

過程	時間	ねらい めあて	☆振り返り(意識)	評価項目・評価方法	記録
つかむ	1	○学習の見通しをもたせることで、作品への関心を高め、学習課題への意欲をもてるようにする。 たぬきとおかみさんの「心の声」を入れて、想像音読発表会をしよう。 登場人物の「心の声」を入れた想像音読をするために、これからどんな学習をしていけばよいか考えよう。	☆「はなのみち」では、挿絵を見て考えたから、今度も挿絵を見るといいかも。 ☆「くじらぐも」で、セリフを考えたから、同じようにやればいいのか。 ☆「おおきなかぶ」のときみたいに、音読するのが楽しみだな。	[主体的に学習に取り組む態度] ① ノート・発言 ・見通しをもって言語活動に取り組もうとしているかを確認する。	
追究する	1	○6つの挿絵を提示し、好きな場の中から)とその理由を伝え合せて、物語全体の内容を捉えるようにする。 好きな場面を選び、好きな理由を伝えよう。	【評価したことを指導に生かす】 ※自らの学習の調整として、見通しをもって言語活動に取り組むという規準を設定したため、児童の様子を最初に見取る重点が置かれる場面と考えている。(記録には残さないため、点線囲みで示した。)	[思考・判断・表現] ① ノート・発言 ・好きな場面の理由から、場面の様子や登場人物の行動など内容の大体を捉えているかを確認する。	○
	1	○挿絵①と文を対応させたり、登場人物の行動を文章から抜き出させたりして、物語の舞台を知り、登場人物の初めの思い(気持ち)を想像しよう。	【評価したことを記録に残す】 ・ここで記録に残すのは、[思考・判断・表現] ①の指導事項は既習事項であり、この場面で学習状況を評価するため。		



小学校・国語

	<p>ができるようにする。</p> <p>絵①と文を合わせたり、たぬきと木こり夫婦の「言動(したことやセリフ)」を見つけたりしよう。</p>	<p>☆「いたずら」ってあるけど、山奥だし、たぬきはさみしいんじゃないかな。 ☆「わなをしかけました。」ってあるから、きこりの夫婦は、たぬきに怒ってるね。</p>	
<p>1</p>	<p>○挿絵②③と文を対応させ、場面の内容を捉えた上で、登場人物の言動を「たぬき」か「おかみさん」か確認する活動を通して、二人の関わりから心情の変化を想像できるようにする。</p> <p>登場人物の「言動(したことや言ったこと)」を見つけて気持ちを想像したり、1の場面の気持ちと比べたりしよう。</p>	<p>☆「糸車をまわすまねをする」ってあるから、たぬきはやってみたいし、おかみさんと仲良くなりたいんじゃないかな。 ☆おかみさんは、たぬきのことをかわいいと思ってきたみたい。 ☆「にがしてやりました」ってあるから、おかみさんはたぬきのが好きになってきたのかな。</p>	<p>[思考・判断・表現] ② ノート ・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像しているかを確認する。</p>
<p>1</p>	<p>○挿絵④⑤と文を対応させ、時間の経過を意識させた上で、たぬきの言動を抜き出す活動を通して、おかみさんがいなかった冬の間のたぬきの様子を想像できるようにする。</p> <p>たぬきの「言動(したことや言ったこと)」だけを見つけて、おかみさんがいない間のたぬきの様子を想像しよう。</p>	<p>☆「じょうずな手つき」ってあるから、たくさんやっと思うよ。 ☆「おかみさんがしていた通</p>	<p>継続的な指導</p>
<p>1</p>	<p>○挿絵⑥と文を対応させ、去り際のたぬき様子に着目させた上で、「楽しくて」でなく「うれしくて」というたぬきの気持ちを考える活動を通して、おかみさんとたぬきの関わりを本文全体を見て振り返ることができるようにする。</p> <p>たぬきは どうして「うれしくて」たまらなかったのか、たぬきの気持ちを想像しよう。</p>	<p>いよね? ☆「うれしくてたまらない」っていうのは、おかみさんの役に立てたからじゃないのかな。きっとたぬきの恩返しだね。 ☆おかみさんが小屋に帰ってきたからじゃないかな。</p>	<p>【評価したことを指導に生かす】 ※同じ指導事項の学習であるので、毎時間記録には残さないが、重点が置かれる場面で児童の学習の様子を見取った(評価した)上で、継続して指導していく。(見取る最初の場面を点線囲みで示した。) 【形成的評価】</p>
<p>まとめ</p>	<p>○今までの学習を思い出して、本文ワークシートに「心の声」を書き込む活動を通して、登場人物の言動から、気持ちを読み取ることができることを再確認し実感できるようにする。</p> <p>気に入った場面の心の声を書いて、想像音読発表の準備をしよう。</p> <p>○「心の声を想像して」音読発表会を開き、単元で学習したことを振り返る。</p> <p>音読発表会を開いて、みんなが想像した心の声を聞こう。</p>	<p>☆物語を読むときに、登場人物の行動やセリフから思いを想像することができるんだ。 ☆思いを想像すると、音読の工夫のヒントになるんだね。 ☆ほかの物語でも、同じ読み方ができのかなあ。</p> <p>☆登場人物の言動から、心の声(思い)が分かるなんておもしろいなあ。 ☆また違う物語でもやってみたいな。</p>	<p>[思考・判断・表現] ② ワークシート ・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像した記述をしているか確認する。</p> <p>[知識・技能] ① 発表 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読しているかを確認する。</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度] ① 振り返りカード ・進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習の見通しをもって、音読をして内容を伝えようとしているかを確認する。</p>

【評価したことを記録に残す】

- ・評価する場面の精選する。「まとめる」過程に集中しているが、単元を見通して、目標の実現状況が児童の表現物等から顕著に見られる場面と考えている。
- ・「知識・技能」と「思考・判断・表現」は、継続的に指導を重ねた結果としての学習状況として捉えている。

※「はばたく群馬の指導プランⅡ」に基づく授業を参考にして作成

指導計画 社会科 第3学年 単元名「火事からくらしを守る」(全9時間計画)

内容のまとめり  
第3学年 内容(3)「地域の安全を守る働き」 火災と事故

単元の目標

火災から地域の安全を守る働きについて、施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめ、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することを通して、消防署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災などの防止に努めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に地域社会の一員として自分たちが協力できることを考えようとする態度を養う。

学習指導要領には示されていない

社会的事象の様子 (具体的な事実に関する知識)	問いの見出し	社会的事象の様子について	学習の見通し	学習状況の見直し 等
評価規準				
知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
①消防施設・消防設備などの配置、緊急時への備えや対応などについて、消防署などの関係機関や関連する施設を見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、関係機関や地域の人々の諸活動を理解している。 ②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、消防署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災などの防止に努めていることを理解している。	①消防施設・消防設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、問いを見出し、関係機関や地域の人々の諸活動について考え、表現している。 ②連携・協力している関係機関の働きを比較・分類したり、関連付けたりして消防署などの関係機関の相互の関連を考えたり、関係機関に従事する人々の活動と地域の人々の生活を関連付けて、従事する人々の働きを考えたり、学習したことを基に火災から自分たちの安全を守るために自分たちができていることを考えたり、選択・判断したりしている。		①火災から地域の安全を守る働きについて予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、単元の課題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に、火災から自分たちの安全を守るために自分たちができていることを考えようとしている。	
社会的事象の特色や意味 (概念等に関する知識)	ゴシックは技能		社会的事象の特色や意味	※設定されない単元もある これからの生活の在り方や社会との関わりを考える (社会的態度)

※ゴシック体は、評価したことを記録に残す場面

過程	時間	○ねらい めあて	☆振り返り(意識)	◇評価規準 〈方法【観点】〉
つかむ	1	○火災現場の写真、A市の火災発生件数、通報から現場に駆けつけるまでの時間が分かる資料などを基に、疑問や調べたいことを話し合い、単元の課題を立てる活動を通して、火災から人々の安全を守る仕事について追究する意欲をもてるようにする。  火事についての資料をもとに、火事から人びとを守る仕事の学習について単元の課題を立てよう。	☆火事が起きたとしてもわずか数分で火事を消せるなんてすごいな。火事を消したり、火事が起きないようにしたりするために、どのような人が、どのような活動をしているのか早く調べて明らかにしたいな。	◇火災に対する緊急時の備えや対応に着目して、疑問や調べたいことなどの問いを見出している。 〈記述・発言【思-①】〉
				【評価したことを指導に生かす】
				【評価したことを記録に残す】
	2	○単元の課題について予想したことを基に、解決するために調べることを伝え合う活動を通して、単元の課題を解決に向けての学習計画を立てさせる。 〈調べる内容〉 ・消防署の人々の働き ・119番通報からの対応 ・身の周りの消防設備 ・地域の防火活動  火事から人びとを守る活動について予想したことを基に、調べる内容や解決する方法を考えよう。	☆いくつか調べることはあるけれど、火事を素早く消すために、消防士の人々には、どのような秘密があるのかな。実際に消防署に見学に行って、インタビューしてみたいな。	◇単元の課題の結論に係る火災から地域の安全を守る働きについて予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっている。 〈記述・発言【態-①】〉

		<b>小学校・社会</b>		
追究する	3・4	<p>○消防署の見学に行き、消防士の話を聞いたり、施設や訓練の様子を調査したりする活動を通して、消防署の人々が火災などの緊急時に対応するための工夫や、人々を守るために日々、訓練を重ねているなどの努力を理解させる。</p> <p>消防しょの人たちは、どのような仕事をしているのだろう。</p>	<p>☆消防署の人たちは、火事の消火にすぐ行けるように、24時間体制で勤務したり、防火服を着やすいように準備をしていたりしていた。また、日頃から厳しい訓練をして、火事から自分たちを守ってくれているので、すごいと思った。</p>	<p>○消防署の見学や、消防士の話を聞いたこと、施設や訓練の様子を調査したことを、自分の言葉で表現している。 〈見学・記述【知-①】〉</p>
	5	<p>○緊急通報の連絡の仕組みについて調べたことを基に、関係機関の動きについて話し合うことを通して、関係機関が相互に連携して緊急時に対応する体制をとっていることを理解させる。</p> <p>119番通報に電話をすると、だれが、どのように対応するのだろう。</p>	<p>☆119番は消防署の緊急指令課につながり、警察署やガス会社、水道局などにも連絡が行き、消防士だけでなく、様々な人たちが協力し合って火事の消火にあたっていたのだな。</p>	<p>◇火災時の連絡に関する資料から、必要な情報を集め、読み取り、緊急通報の連絡の仕組みと関係機関の相互の連携体制について理解している。 〈記述・発言【知-①】〉</p>
	6	<p>○学校や地域の消防施設や設備の役割を調べ、消火栓や避難場所などの意味について話し合う活動を通して、身の回りの防火のために様々な施設や設備が身の回りに整備されていると理解させる。</p> <p>学校や地域には、どのような消防しせつがあるのだろう。</p>	<p>☆身の回りの防火のために、消火栓や避難場所が整備されている。火事が起きて、早く消火したり、安全を守ったりするために備えているのだね。</p>	<p>◇学校や地域の消防施設や設備に関する資料から、必要な情報を集め、読み取り、身の回りの消防施設や設備が、火災時に自分たちの安全を確保していることを理解している。 〈記述・発言【知-①】〉</p>
	7	<p>○消防団など地域の人々の取組について話し合うことを通して、消防団が消防署と連携して自分たちの地域を守る努力をしていることを理解させる。</p> <p>火事が起きたときのために、わたしたちの地域では、どのような取り組みが行われているのか。</p>	<p>☆火事の時には、消防団など地域の人々も駆けつけてくれるんだね。また、日頃から地域を守るための訓練を重ねていたり、火事だけでなく、台風や地震の時も活躍したりしていたのだな。地域の人にも感謝しなくてはいけないな。</p>	<p>◇地域の消防団の人々の取組と地域における火災や防火への備えとの関連を考え、表現している。 〈記述・発言【思-①】〉</p>
まとめる	8	<p>○単元の課題の解決に向けて調べた事実を基に、火災から人々の安全を守る取組について新聞記事にまとめる活動を通して、消防署などの関係機関は、相互に連携して緊急時に対応したり、地域の人々と協力して火災の防止に努めたりしていることを理解させる。</p> <p>火事からくらしを守るために、消防しょや地域ではどのような活動をしているのか。調べてきたことを基に新聞記事にまとめる。</p>	<p>☆消防署など関係機関がすぐに連絡を取り合ったり、消火栓や避難場所を計画的に準備したりするなどの体制や活動があるから、火事から人々を守ることができていたのだな。自分たちにも何かできることはないかな。</p>	<p>◇関係機関の働きを比較・分類したり、関連付けたりして、消防などの活動に従事する人々の活動と地域の人々の生活とを関連付けて考え、表現している。 〈新聞・発言【思-②】〉</p>
	9	<p>○火災発生件数や火災原因の資料を基に、防火のための標語を考える活動を通して、自分たちができる火災防止への意識を高めさせる。</p> <p>防火意識を高めるための標語を考え、伝え合おう。</p>	<p>☆火の元に注意をしたり、むやみに火遊びをしたりせず、安全に過ごせるように努力すれば、火事の件数は減らせると思った。家の人にも伝えていこう。</p>	<p>◇学習してきたことを基に、防火に向け、自分たちがやるべきことについて考えようとしている。 〈標語・発言【態-②】〉</p>

**【評価したことを指導に生かす】**

各単位時間の「ねらい」に即し、学習状況をみとり、必要があれば指導、支援するなどして、改善を図る。(形成的評価)

**【評価したことを記録に残す】**

- ・評価する時期や場面の精選
- ・単元を見通して、目標の実現状況が子供の反応から顕著に見られる場面
- ・知識・技能と思考・判断・表現は継続的に指導を重ねた結果としての学習状況としての捉え

**小学校・社会**

○消防署の見学や、消防士の話を聞いたこと、施設や訓練の様子を調査したことを、自分の言葉で表現している。  
〈見学・記述【知-①】〉

◇火災時の連絡に関する資料から、必要な情報を集め、読み取り、緊急通報の連絡の仕組みと関係機関の相互の連携体制について理解している。  
〈記述・発言【知-①】〉

◇学校や地域の消防施設や設備に関する資料から、必要な情報を集め、読み取り、身の回りの消防施設や設備が、火災時に自分たちの安全を確保していることを理解している。  
〈記述・発言【知-①】〉

◇地域の消防団の人々の取組と地域における火災や防火への備えとの関連を考え、表現している。  
〈記述・発言【思-①】〉

◇関係機関の働きを比較・分類したり、関連付けたりして、消防などの活動に従事する人々の活動と地域の人々の生活とを関連付けて考え、表現している。  
〈新聞・発言【思-②】〉

◇消防署などの関係機関は、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災などの防止に努めていることを理解している。  
〈新聞・発言【知-②】〉

◇学習してきたことを基に、防火に向け、自分たちがやるべきことについて考えようとしている。  
〈標語・発言【態-②】〉

※「はばたく群馬の指導プランⅡ」に基づく授業を参考にして作成

※単元により設定されない場合があります。

指導計画 算数科 第5学年 単元名「速さの表し方を考えよう」(全6時間計画)

単元の目標
(1) 異種の二つの量の割合として捉えられる数量(速さ)の意味及び表し方について理解し、速さを求めることができる。 (2) 異種の二つの量の割合として捉えられる数量(速さ)の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考えたり、それらを日常生活に生かしたりすることができる。 (3) 異種の二つの量の割合として捉える数量(速さ)について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを生活や学習に活用したりしている。

単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①異種の二つの量の割合として捉える数量(速さ)について、その比べ方や表し方について理解している。 ②単位量あたりの大きさ(速さ)について理解している。 ③異種の二つの量の割合で捉えられる速さを比べたり表したりすることができる。	①異種の二つの量の割合として捉えられる数量(速さ)の関係に着目し、目的に応じた、大きさの比べ方や表し方を考えている。 ②日常生活の問題を、単位量あたりの大きさ(速さ)を活用して解決している。	①異種の二つの量の割合として捉えられる数量(速さ)の関係に着目し、単位量あたりの大きさを用いて比べることのよさに気付き、学習したことを生活や学習に活用しようとしている。 ②単位量あたりの大きさ(速さ)を活用できる場面を身の回りから見つけようとしている。

**【単元の評価規準について】**  
 単元の学習内容に応じて、「具体的な内容のまとめりごとの評価規準」一覧より抜粋して記載する。

※指導に生かす評価の代表的な機会を「・」、記録に残す評価の機会を「○」として明記する。  
 ※知識・技能…「知」、思考・判断・表現…「思」、主体的に学習に取り組む態度…「態」と表記

過程	時間	○ねらい・めあて	☆振り返り(意識)	評価規準・(評価方法)		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
であう	1	○距離と時間がどちらも異なる場合の速さについて既習の学習を生かして考えることを通して、速さの比べ方や表し方を考えていくという単元の見通しをもつことができるようにする。  距離と時間が異なる場合、速さはどのように比べればよいだろうか。	☆速さも混み具合と同じように単位量当たりの考え方で比べられる。		・思① (活動観察、ノート分析)	・態① (活動観察、ノート分析) ●速さの比べ方を、既習の学習を生かして考えている。
<p><b>【評価したことを指導に生かす】</b>                      「・」印の箇所は記録はしないが、各単元時間に評価をし指導に生かしていく。</p>						
<p><b>【単元の課題】</b> 速さの比べ方や表し方には、どのようなものがあるのだろうか？</p>						
追究す	2	○速さを1時間あたりに進んだ道のりで表すと分かりやすいことに気付かせ、計算で求めることができるよう	☆速さは道のり÷時間をして1時間あたりに進んだ距離で比べ	・知① (ノート分析) ●速さを1		

**小学校・算数**

る	にする。 速さはどのように比べると分かりやすいだろうか。	ると分かりやすい。	時間あたりに進んだ距離で表すことを理解している。		
3	○時速・分速・秒速の意味を理解できるようにする。 時間が分や秒だった場合、速さはどのように表せばよいだろうか。	☆時速以外に、分速や秒速という速さの表し方があった。	・知① (ノート分析) ・知② (ノート分析) ●時速、分速、秒速の意味を理解している。	○思① (活動観察、ノート分析) ●数直線を用いて、道のり＝速さ×時間の関係を説明できる。	
4	○速さと時間から道のりを求めることができるようにする。 道のりを求めるにはどのようにすればよいだろうか。	☆道のりは、速さ÷時間で求められることが分かった。	・知②③ (ノート分析) ●速さに関わる数量の関係において、速さや道のり、時間を求められる。	・思② (活動観察、ノート分析)	○態① (ノート分析)
5	○速さと道のりから時間を求めることができるようにする。 時間を求めるにはどのようにすればよいだろうか。	☆時間は、速さ×□＝道のりや道のり÷速さで求められることが分かった。		・思② (活動観察、ノート分析)	
つかう	6 ○作業の速さも単位量当たりの大きさの考え方をを用いて比べられることができるようにする。 作業する速さを比べるにはどうすればよいだろうか。	☆単位量当たりの大きさの考え方をを使えば、作業の速さについても比べられることができた。		○思② (ノート分析) ●単位量当たりの大きさの考え方をを用いて、作業の速さの比べ方を考え、説明できる。	○態② (ノート分析)
評価	学習内容の定着を確認する。		○知①②③ (ペーパーテスト)		

**【評価したことを記録に残す】**  
 ・○印は記録する  
 ・単元を見通して、目標の実現状況が子供の反応から顕著に見られる時間に「○」印を設定する。

- ☞ 「知」の評価に適する方法→「活動の様子」「ノート等の記述内容」「ペーパーテスト」
- ☞ 「思」「態」の評価に適する方法→「活動の様子」「ノート等の記述内容」

(注) 「思」の評価のための情報を単元末のペーパーテストで収集する際には注意が必要  
 ○文章題の式が立てられているだけなら「知」で評価すべき、「答えに対してその理由を書きなさい」などの問題に対して適切に記述できている場合に「B」と評価できる。

※ 「はばたく群馬の指導プランⅡ」に基づく授業を参考にして作成

指導計画 理科 第5学年 単元名「流れる水のはたらき」(全10時間計画)

目標	流れる水の速さや量に着目して、それらの条件を制御しながら、流れる水の働きと土地の変化を調べる活動を通して、それらについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主に予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。			
評価 規 準	知識・技能	①知識面 ・内容の(ア) ～(ウ)	思考・判断・表現 学習の対象	主体的に学習に取り組む態度
	①流れる水には、土地を侵食したり、石や土などを運搬したり堆積させたりする働きがあることを理解している。 ・川の上流と下流によって、川原の石の大きさや形に違いがあることを理解している。 ・雨の降り方によって、流れる水の速さや量は変わり、増水により土地の様子が大きく変化する場合があることを理解している。 ②流れる水の働きと土地の変化について、観察、実験などの目的に応じて器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。	①流れる水の働きと土地の変化について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 ②流れる水の働きと土地の変化について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。 ①観察、実験前の思考・判断・表現 ・問題の見だし(3年) ・予想、仮説の発想(4年) ・解決方法の発想(5年) ②観察、実験後の思考・判断・表現 ・結果を基にした考察	①流れる水の働きと土地の変化についての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 ②流れる水の働きと土地の変化について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。 ①粘り強い取組を行おうとする側面 自らの学習を調整しようとする側面 ②理科を学ぶことの 意義や有用性の認識という側面	

②技能面

過程	時間	◎ねらい・問題	☆振り返り(意識)	重点	記録	備考
ふれる・つかむ	1	◎地形図へ記入したり、川の様子の写真や河原の石に触れたりすることを通して、流れる水のはたらきについて興味・関心をもてるようにし、単元の課題を作らせる。	☆利根川が近くを流れているが、あまり気にしてみたことはなかったな。僕たちの町は利根川の下流に近い中流だな。この石は河原のどこでとれたものなのだろう。流れる水と土地の変化には、どんな関係があるのだろうか。早く調べたいな。	思		思考・判断・表現①/ 【記述分析】 ・利根川と上流や下流の様子 の差異点や共通点を基に、 問題を見いだすことができ ているかを確認する。
【単元の課題】流れる水のはたらきと土地の変化にはどのような関係があるのか、調べていこう。						
追究する	1	◎流水のモデル実験を通して、流れる水のはたらきを理解させる。 流れる水は土地をどのように変化させるのか。	☆流れる水には「けずる(浸食)」「運ぶ(運搬)」「積もらせる(堆積)」の3つのはたらきがあるんだな。	知		知識・技能①/ 【記述分析】 ・流れる水には、地面を削ったり、土を運んだりするはたらきがあり、運ばれた土は、流れが緩やかになるところで積もることを理解しているかを確認する。
	1	◎川の上流と下流の情報を集め、全体の様子や石の特徴について考察することを通して、河原の石の大きさや形に違いがあることを理解させる。 川の上流と下流では、川の様子や河原の石にどのような違いがあるのか。	☆上流の方の石は大きく岩みたいで、ごっごつしているのだな。下流に行くほど石はどんどん小さくなって丸みを帯びるから、はじめに見た石は下流の方の石ではないかな。	思		思考・判断・表現②/ 【記述分析】 ・上流と下流それぞれの石の特徴について、資料を基に考察し、表現するなどして問題解決しているかを <u>確認する</u> 。

指導に生かす評価

**小学校・理科**

	1	<p>◎雨が短時間に多量に降ったり、長時間降り続いたりしたときの水の速さや量の変化、災害について資料を活用して調べることを通して、雨の降り方と川の水量の関係について理解させる。</p> <p>川の水量はどのようなときに増えるのか。</p>	<p>☆長雨や台風など、たくさん雨が降ると、川の水量は増えるんだな。上流から集まってくるのだから、上流で雨が降った少し後に、下流で水量が増すのだな。</p> <p>☆映像では流れが速くなる様子が見られたから、けずる働きや運ぶ働きが大きくなるのではないかな。</p>	態	○	<p>主体的に学習する態度①/ 【行動観察】</p> <p>・流れる水の働きと土地の変化についての事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしているかを評価する。</p>
	1	<p>◎流れる水の量や速さと流れる水のはたらきの関係について調べる計画を立てることを通して、実験への見通しをもたさせる。</p> <p>流れる水の速さや量を変えると、土地の様子はどうか変化するのか。</p>	<p>☆予想を確かめるには、ペットボトルを2本の水を同時に流せば水量を増やすことができるな。台の角度を急にすると、上流の削る働きが大きくなって、砂や土がたくさん流されると思うな。</p>	思	○	<p>思考・判断・表現①/ 【記述分析】</p> <p>・流れる水のはたらきについて、自分の予想を確かめる適切な実験方法を考え、表現しているかを評価する。</p>
	1	<p>◎水量が増した場合のモデル実験を行うことを通して、流れる水の量や速さと流れる水のはたらきについて理解させる。</p>	<p>☆流れる水の速さが増したり、水量が増すと、流れる水のはたらきは大きくなるのだな。「けずる」と「運ぶ」はたらきは川のはじめの方で、「つもらせる」はたらきは川の最後の方で大きくなるんだな。</p>	知	○	<p>知識・技能④/ 【行動観察・記述分析】</p> <p>・モデルを用いて、流れる水のはたらきについて調べ、結果を分かりやすく記録しているかを評価する。</p>
まとめ	1 現場学習 [2]	<p>◎流れる水のはたらきと土地の変化についてまとめ、実際の川でも流れる水のはたらきによって、土地の様子が変わっていることを理解する。[現場学習]</p> <p>実際の川の水はどのように土地を変化させているのか。</p>	<p>☆川のモデル実験して、流れる水のはたらきについて知りました。</p> <p>☆実際の川でも、浸食や堆積による土地の変化があることがわかった。</p>	知	○	<p>知識・技能①/ 【記述分析】</p> <p>・流れる水には、土地を侵食したり、石や土などを運搬したり堆積させたりする働きがあることや、増水により土地の様子が大きく変化する場面があることを理解しているかを評価する。</p>
	1	<p>○現場学習で見られた防災施設の意味について話し合うことを通して、川による災害を防ぐために行われている取り組みについてを理解する。</p>	<p>☆現場学習では、曲がっている川の外側は流れが速かったので、けずる働きが大きいと思うから、コンクリートで防いでいるのだろう。</p>	態	○	<p>主体的に学習に取り組む態度②/ 【行動観察・記述分析】</p> <p>・流れる水のはたらきと土地の変化について、学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。</p>

記録に残す評価

※「はばたく群馬の指導プランⅡ」に基づく授業を参考にして作成

・「十分満足できる」状況（A）と「おおむね満足できる」状況（B）とを判断するポイントとしては、より「科学的」（実証性、再現性、客観性が担保されている）で質的な高まりが見られるものを「A」とする。

指導計画 生活科 第1学年 単元名「つくろう あそぼう」(全17時間計画)

目 標	○身近にある自然物や材料を使って、おもちゃを作ったり、遊んだりする活動を通して、遊びやおもちゃを工夫してつ くることができ、遊びの面白さや、自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びをつくり出そうと することができるようにする。		
	<p>※単元の目標の作成に当たっては、育成する資質・能力を 総括的に示すなど工夫する。</p> <p>※学習指導要領の解説の内容の目標を参考にしながら、学校 や児童の実態等を踏まえて作成する。</p>		<p>太実践→児童が直接関わる学習対象や実際に行われる学習活動等 二重線→「思考力、判断力、表現力等の基礎」 波 線→「知識及び技能の基礎」 点 線→「学びに向かう力、人間性等」</p> <p>※単元の評価規準については、目標の学習活動を通して、 ～しているに文末表現を変えて作成する。</p>
評 価 規 準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	○身近にある自然物や材料を使って、おもちゃを作ったり、遊んだりする活動を通して、遊びの面白さや自然の不思議さに気付いている。	○身近にある自然物や材料を使って、おもちゃを作ったり、遊んだりする活動を通して、遊びやおもちゃを工夫してつくっている。	○身近にある自然物や材料を使って、おもちゃを作ったり、遊んだりする活動を通して、みんなと楽しみながら遊びをつくり出そうとしている。
で あ う	①身近にある自然物や材料は、いろいろなおもちゃに利用できることに気付いている。 〈活動の様子、発言【知-①】〉	<p>※過程における評価規準の作成に当たっては、学習指導要領解説における内容に関する資質・能力の記載事項と、補足資料として、具体的な内容のまとめりととの評価規準を参考にして、作成する。</p>	①身近にある自然物や材料で遊びたいという思いをもち、おもちゃと繰り返し関わっている。 〈活動の様子、発言【態-①】〉
は た ら き か け る	②遊びの楽しさやおもちゃづくりや遊びのルールを工夫したり、遊びをつくり出したりする面白さに気付いている。 〈活動の様子、発言、作品【知-②】〉 ③約束やルールが大切なことやそれを守って遊ぶ楽しさに気付いている。 〈活動の様子【知-③】〉	①自分たちで作りたいおもちゃを思い描きながら、おもちゃに必要な身近な自然物や材料を選んでいる。 〈活動の様子、学習シート【思-①】〉 ②みんなが楽しく遊べるおもちゃを試したり工夫したりしながらつくっている。 〈活動の様子、発言、学習シート【思-②】〉 ③みんなが楽しく遊べるルールを予想したり確かめたりしながら考えている。 〈活動の様子、発言、学習シート【思-③】〉 ④遊びやおもちゃの改善点を見直しながらかついている。 〈活動の様子、発言、学習シート【思-④】〉	②楽しい“遊びの会”を開きたいという思いをもち、粘り強くおもちゃや遊びをつくり出そうとしている。 〈活動の様子、発言【態-②】〉 ③友達の考えのよさを取り入れたり自分との違いを生かしたりして、遊びを楽しくしようとしている。 〈活動の様子、発言【態-③】〉
ふ り か え る		⑤遊びを工夫したり、友達と楽しく遊んだりしたことを振り返り、表現している。 〈発言、作品【思-⑤】〉	④みんなで遊ぶと楽しくなることを実感し、今後の活動に生かそうとしている。 〈学習シート、発言【態-④】〉

過程	時間	○ねらい めあて	☆振り返り (意識)	◇評価規準 〈方法・観点〉
で あ う	1	○教師が作ったおもちゃで遊んだり、これまで身近にある自然物や材料で作ったことのあるおもちゃを出し合ったりして、おもちゃを作りたいという思いをもたせる。  おもちゃでたのしもう。	☆自分も作って遊んでみたい。 ☆どんぐりや松ぼっくりを使って色々なおもちゃが作れるんだな。	◇身近にある自然物や材料で遊びたいという思いをもち、おもちゃと繰り返し関わっている。 〈活動の様子、発言【態-①】〉
	2 3	○身近にある自然物や材料を使っておもちゃを作って遊び、気付いたことや思ったことを伝えたり、話し合ったりすることを通して、自分でおもちゃを作り出す面白さや、自然の不思議さに気付くことができるようにする。  おもちゃをつくってみんなであそぼう。	☆楽しいおもちゃができたよ。 ☆友達の言うとおりにしたら、どんぐりごまがよく回るようになったよ。 ☆みんなで一緒に遊ぶと楽しいな。 ☆もっと色々なおもちゃを作りたいな。 ☆もっとたくさんの友達やいろいろな人と遊びたいな。	◇身近にある自然物や材料は、いろいろなおもちゃに利用できることに気付いている。 〈活動の様子、発言【知-①】〉  【評価したことを指導に生かす】 →



# 小学校・生活

4	<p>○昨年度の遊びの会の様子を聞いたり、自分たちもおもちゃで遊んだことを振り返ったりすることを通して、自分たちも年長児を招待して楽しい遊びの会を開こうという思いをもたせる。</p> <p>“あそびのかい”のけいかくをたてよう。</p>	<p>☆楽しいお店がいっぱいある。 ☆空気砲やゴムでっぽう遊びのお店もあったよ ☆遊びの会を開いて年長さんと遊びたいな。</p>	<p>※【態-①】、【知-①】</p> <p>【評価したことを記録に残す】</p>
はたらきかける	<p>5 6</p> <p>○お店ごとに作りたいおもちゃや必要なものを話し合うことを通して、おもちゃ作りの見通しをもたせる。</p> <p>“あそびのかい”のじゅんぴをしよう</p>	<p>☆どんぐりや松ぼっくり以外で作れるおもちゃも考えた</p>	<p>◇自分たちで作りたいおもちゃを思い描きながら、おもちゃに必要な身近な自然物や材料を選んでいる。 〈活動の様子、学習シート【思-①】〉</p>
7 8	<p>○グループで話し合いながら、試したり遊んだりすることを通して、みんなが楽しく遊べるように工夫しておもちゃを作ることができるようにする。</p> <p>みんなでおもちゃをつくろう。</p>	<p>☆輪がうまく棒に入らないからもっと大きい輪を作った方がいいね。 ☆もっとたくさんおもちゃを作った方が、みんなで遊べるね。</p>	<p>◇遊びの楽しさやおもちゃづくりや遊びのルールを工夫したり、遊びをつくり出したりする面白さに気付いている。 〈活動の様子、発言、作品【知-②】〉 ◇みんなが楽しく遊べるおもちゃを試したり工夫したりしながらつくっている。 〈活動の様子、発言、学習シート【思-②】〉 ◇楽しい“遊びの会”を開きたいという思いをもち、粘り強くおもちゃや遊びをつくり出そうとしている。 〈活動の様子、発言【態-②】〉</p>
9 10	<p>○グループで話し合いながら、みんなが楽しく遊べるようなルールを考えることができるようにする。</p> <p>みんなでのしくあそべるルールをかंगाえよう。</p>	<p>☆年長さんが楽しめるようにもっとルールを簡単にしようがいいかな。 ☆ボーリングで倒すペットボトルの点数を変えたら面白</p>	<p>◇みんなが楽しく遊べるルールを予想したり確かめたりしながら考えている。 〈活動の様子、発言、学習シート【思-③】〉 ◇約束やルールが大切なことやそれを守って遊ぶ楽しさに気付いている。 〈活動の様子【知-③】〉</p>
11 12	<p>○良かった点、改良点を考えながら、それぞれのグループのお店で遊ぶことを通して、気付いたことを伝えられるようにする。</p> <p>ともだちのおみせであそんで、きづいたことをつたえよう。</p>	<p>☆輪投げ遊びは、投げる場所をもっと近くしたほうが、入りやすいと思います。 ☆ゲートボール遊びは、スティックをもっと細くした方が持ちやすいと思います。 ☆どんぐりロケット遊びは、まあと点数があるともっとおもしろいと思います。 ☆難しいコースかやさしいコースを自分で選べるともっと楽しくなると思います。</p>	<p>◇遊びやおもちゃの改善点を見直しながらかついている。 〈活動の様子、発言、学習シート【思-④】〉 ◇友達の考えのよさを取り入れたり自分との違いを生かしたりして、遊びを楽しもうとしている。 〈活動の様子、発言【態-③】〉</p>
13	<p>○友達からのアドバイスをもとに、おもちゃやルールの改善点を決めて、さらに工夫することができるようにする。</p> <p>もっとわくわくする“あそびのかい”にしよう。</p>	<p>☆輪を投げる場所を、もっと近くにして試してみよう。 ☆ゲートボールのスティックは、細いものと太いものと2つ作って、好きな方を選んでもらったほうがいいね。 ☆的に点数をつけよう。点数によって景品をかえてもいいね。 ☆年長さんが喜んでくれるよ</p>	<p>【評価したことを指導に生かす】</p> <p>※【思-④】</p> <p>【評価したことを記録に残す】</p> <p>※知識・技能…気付きの質が高まっているか捉え評価する。</p> <p>※【知-②】、【知-③】</p> <p>【評価したことを記録に残す】</p>
14 15	<p>○年長児を招待し、楽しい会で一緒に楽しく遊ぶことを通して、年下の子と遊んだり、喜ばせたりする楽しさを味わうことができるようにする。</p> <p>“あそびのかい”を、みんなでのしもう。</p>	<p>☆自分たちが作ったおもちゃで、年長さんが楽しく遊んでくれてうれしいな。 ☆ゲームの説明を分かりやすく伝えられたよ。 ☆みんなと一緒に遊ぶと楽しいよ</p>	<p>◇遊びを工夫したり、友達と楽しく遊んだりしたことを振り返り、表現している。 〈発言、作品【思-⑤】〉 ◇みんなで遊ぶと楽しくなることを実感し、今後の活動に生かそうとしている。 〈学習シート、発言【態-④】〉</p>
ふりかえる	<p>16 17</p> <p>○準備や“遊びの会”を振り返り、感想を發表したり、絵本などにまとめたりすることを通して、自分が頑張ったことに気付けるとともに、今後の活動へ生かせるようにする。</p> <p>たのしかった“あそびのかい”をふりかえろう。</p>	<p>☆どんぐりごまでみんなで遊んで、楽しかったな。 ☆みんなで相談しながら準備したことが楽しかったよ。 ☆年長さんが「もう一度やりたい」と言ってくれて、うれしかった。 ☆一生懸命準備できたな。 ☆また一緒に遊びたいな。</p>	<p>※授業時間外の児童の姿の変容にも目を向けて、指導の評価としていきましょう。</p>

◎観点別学習状況の評価の総括について  
 …記録に基づいて判断した評価規準の評価結果を足し合わせていく方法や評価規準に重み付けをして集計する方法もある。  
 どちらにしても学習活動の長短や実施段階などを踏まえていく必要がある。  
 「はばたく群馬の指導プランⅡ」に基づく授業を参考にして作成

指導計画 音楽科 第4学年 題材名「日本の音楽に親しもう」(全6時間計画)

目標	<p>(1) 日本の音楽の曲想及びその変化と音楽の構造との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。</p> <p style="text-align: right;">「知識及び技能」の習得に関する目標</p> <p>(2) 日本の音楽の旋律、リズム、音階、呼びかけとこたえなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさを見いだしながら曲全体を味わって聴いたり、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもったりする。</p> <p style="text-align: right;">「思考力、判断力、表現力等」の習得に関する目標</p> <p>(3) 日本の音楽の特徴を捉える学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞や音楽づくりの学習活動に取り組み、日本の音楽に親しむ。</p> <p style="text-align: right;">「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関する目標</p> <p style="text-align: center;">目標は、「はばたく群馬の指導プランⅡ」で示されている、「日本の音楽の雰囲気や旋律の特徴を感じ取りながら、民謡を聴いたり、お囃子の旋律をつくったりすることを通して、日本の音楽に親しむことができるようにする。」のように、1文で示すことも考えられる。</p>
----	--

評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p>① <b>知</b> 日本の音楽の曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付いている。(鑑賞)</p> <p>知識については、事項イの文末を「～している」と変更することで作成することができる。なお、文頭部分に曲名等を挿入することも考えられる。</p> <p>② <b>知技</b> 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さをなどに関わらせて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。(音楽づくり)</p> <p>技能については、事項ウの文末を、扱う分野に応じて「歌っている」「演奏している」「音楽をつくっている」より選択して置き換えることで作成することができる。 ※「B鑑賞」においては設定しない。</p>	<p><b>思</b>① 旋律、リズム、音階、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさを見だし、曲全体を味わって聴いている。(鑑賞)</p> <p><b>思</b>② 旋律、リズム、音階、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。(音楽づくり)</p> <p>知識と技能の関連付けも重要であり、本事例の②<b>知技</b>のように、統合した評価規準として設定し、一体的に評価することも考えられる。この場合、評価場面や評価方法等について慎重に検討する。</p>	<p><b>態</b>① 日本の音楽に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞や音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。(鑑賞・音楽づくり)</p> <p>その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意志をもったりできるようにするために必要となる取り扱う教材曲の特徴や学習内容など、興味・関心をもちたい事柄を記す。また、その題材の領域及び分野を選択する。</p> <p>音色、リズム等、その題材の学習において児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を適切に選択する。</p>

過程	時間	ねらい めあて	☆振り返り(意識)			評価規準(評価方法)			記録
			知・技	思	態	知・技	思	態	
つかむ	1	○「ソーラン節」「八木節」を聴き、たり拍子を打ったりしながら聴くことを通して、日本の音楽の興味をもつことができるように いろいろな民謡をきいて、日本のよさやおもしろさをさがす	<p>【継続的に児童の学習状況を確認する】 本題材では、1時間目は記録に残す評価はしないが、知識及び思考・判断・表現の視点で児童の活動の姿を捉え<b>指導に生かす</b>。それを踏まえて2時間目に知識及び思考・判断・表現について評価する。</p> <p>※丸数字の評価規準が設定されていない授業においても、<b>教師の指導の改善や児童の学習改善に生かす</b>ために、児童の学習状況を確認する。</p>						
	2	○「こきりこ」を聴き、前時に学習比較しながら音楽の特徴や仕組みを捉え、五音音階やリズムの特徴について知ることができるように 「こきりこ」をきいて、日本に使われている音のなぞをさぐ	<p>【評価したことを記録に残す】 指導計画や授業の展開において、評価規準に基づき、評価の結果を記録に残す場面を適切に位置付けて精選する。</p>			①知 記述・発言	①思 (記述・発言)		○

# 小学校・音楽

追求する	3	<p>○前時までに学習した民謡の特徴をたづね、探る活動を通して、表現したいことをもちょうとすることができるようにする。</p> <p>五つの音を使っておはやしの曲をつくろう。</p>	<p>【継続的に児童の学習状況を確認する】 本題材では、3時間目は記録に残す評価はしないが、知識・技能、思考・判断・表現の視点で児童の活動の姿を捉え<b>指導に生かす</b>。</p> <p>※丸数字の評価規準が設定されていない授業においても、<b>教師の指導の改善や児童の学習改善に生かす</b>ために、児童の学習状況を確認する。</p>	<p>○</p>	
	4	<p>○旋律をつなげて演奏し、「おはやし」をグループごとにまとめる活動を通して、思いや意図をもちょうとすることができるようにする。</p> <p>グループのおはやしをおもしろくするために、つなげ方を工夫しよう。</p>			<p>○</p>
	5	<p>○つくった旋律に合うリズム伴奏を考えることを通して、旋律とリズム伴奏を奏できるようにする。</p> <p>おはやしに合うリズム伴奏をおはやしを盛り上げよう。</p>			<p>○</p>
まとめる	6	<p>○グループでつくったお囃子を演奏し、互いに聴き合うことを通して、音楽の楽しさを味わうことができるようにする。</p> <p>グループのおはやしを演奏し、そのよさやおもしろさを見付けよう。</p>	<p>【前後の関連づけを工夫して位置付ける】 本題材では、②<b>知技</b>は①<b>態度</b>の後に位置付けている。これは、技能に関する事項ウにおける「思いや意図に合った表現をするために必要な技能」という位置付けに基づき、「思考力、判断力、表現力等」と関連付けた技能を見取るため、ここに位置付けている。</p> <p>【評価したことを記録に残す】 本題材では、粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意志をもったりしているかどうかについて、継続的に見取るようにし、第6時で記録に残す。</p>	<p>○</p>	

※「はばたく群馬の指導プランⅡ」を基に作成

※丸数字…全員の学習状況を記録に残す場面

【参考：音楽づくりにおける評価規準作成に当たっての留意点】

音楽づくりの活動においては、各事項の(ア)及び(イ)の内容のまとまりを念頭に置いて題材を構成する必要がある。各観点の評価規準の作成については、以下の点に留意する。

○「知識・技能」

- ・事項ウの前半部分「発想を生かした表現や、思いや意図に合った表現」のうち、「発想を生かした表現」をするために必要な技能として(ア)を、「思いや意図に合った表現」をするために必要な技能として(イ)を位置付けている。よって、この部分については、(ア)及び(イ)の内容のまとまりに配慮しつつ、後半部分の「次の(ア)及び(イ)の技能」に対応する部分について(ア)を選んで置き換えた場合は「発想を生かした表現」を、(イ)を選んで置き換えた場合は「思いや意図に合った表現」を選択する。

○「思考・判断・表現」

- ・最後の部分は、事項アの(ア)、(イ)のうち、いずれか適切なものを選択して挿入し、文末を「～ている」と変更する。

＜第5学年及び第6学年の例＞

\*下線部は事項の文言を「評価の観点の趣旨」に倣って置き換えた部分、ゴシック体の[ ]内及び波線部は、事項や「評価の観点の趣旨」の文言を題材で扱う内容に合わせて適切に選択するなどして置き換えたり挿入したりする部分である。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・【事項イの(ア)又は(イ)】について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解している。</li> <li>・【下で(ア)を選んだ場合は「発想を生かした表現」、(イ)を選んだ場合は「思いや意図に合った表現」】をするために必要な、【事項ウの(ア)又は(イ)】を身に付けて音楽をつくっている。</li> </ul>	<p>【音色、リズム等】（その題材の学習において児童の思考・判断のよりどころとなる、主な音楽を形づくっている要素を適切に選択）を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、【事項アの(ア)又は(イ)】（いずれかを選択し、文末を「～ている」と変更する）。</p>	<p>【その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要となる、取り扱う教材曲の特徴や学習内容など、興味・関心をもたせたい事柄】に興味・関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。</p>

指導計画 図画工作科 第3学年 題材名「物語の世界を版画で表そう」(全9時間計画)

目標を設定するに当たり、学習指導要領の「学年の目標」「内容」、学習指導要領解説を基に指導することを確認。「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」は「内容」を参考にし、「学びに向かう力、人間性等」は、学年の目標(3)を参考にする。

目標

【知識及び技能】

- ・自分の感覚や行為を通して、形の組合せによる感じなどが分かる。(知識)
- ・紙や糸、のりや接着剤、はさみなどを適切に扱うとともに、前学年までの紙や糸、のりや接着剤、はさみなどについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。(技能)

知識は、[共通事項] (1) アを基に設定する。指導計画の作成と内容の取扱い2 (3) 「[共通事項] のアの指導」を参考にし、題材に即して具体的に示す。

二重線部「自分の感覚や行為を通して」については、題材に即して具体的に示すことが考えられる。

技能は、A表現(2) アまたはイを基に設定する。「前学年までの材料や用具」については、指導計画の作成と内容の取扱い2 (6) 「材料や用具」を参考にし、題材に即して具体的に示す。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・物語を聞き、感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や材料を生かしながら、どのように表すかについて考える。(発想・構想)
- ・自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。(鑑賞)
- ・形の組合せによる感じなどを基に、自分のイメージをもつ。(共通事項)

A表現(1) アまたはイを基に、発想・構想に関する目標を設定する。また、絵や立体、工作に表す活動における、中学年の「感じたこと、想像したこと、見たこと」については、題材の即して選択し、さらに具体的に示す。(点線部)

B鑑賞(1) アを基に、鑑賞に関する目標を設定する。

[共通事項] (1) イを基に設定する。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・進んで凹凸のある材料を組み合わせて版をつくったり、版を刷ったりして版画に表す活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を想像しようとする態度を養う。

学年の目標(3)を基に、目標を設定する。

傍線部は、個人内評価として捉え、評価したことを児童個々にかえす。(言葉掛け、ワークシートのコメントなど)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<p>・版をつくるときの感覚や行為を通して、形の組合せによる感じが分かっている。(知識)</p> <p>知識は、[共通事項] (1) アを基に設定する。文末を「～している。」とする。</p> <p>・紙や糸、のりや接着剤、はさみなどを適切に扱うとともに、前学年までの紙や糸、のりや接着剤、はさみなどについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。(技能)</p> <p>技能は、A表現(2) アまたはイを基に設定する。文末を「～している。」とする。</p>	<p>・形の組合せによる感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、物語を聞いて感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。(発想・構想)</p> <p>[共通事項] (1) イ(波線部)に続けて、A表現(1) アまたはイ、B鑑賞(1) アを示す。</p> <p>・形の組合せによる感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。(鑑賞)</p>	<p>・つくりだす喜びを味わい進んで凹凸のある材料を組み合わせて版をつくったり、版を刷ったりして版画に表す学習活動に取り組もうとしている。(表現)</p> <p>・つくりだす喜びを味わい進んで自分たちの作品を鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。(鑑賞)</p> <p>「学びに向かう力、人間性等」から、観点別に学習状況を評価するものだけを示す。文末は、学習の状況を評価することや児童の意志的な側面も評価することから、「～しようとしている」とする。</p>

過程	時間	ねらい めあて	☆振り返り(意識)	評価規準(評価方法)			記録
				知技	思判表	態	
出会う	1	<p>○「にじいろのさかな」の海の生き物や周りの話し合い、様々な海のイメージさせる。</p> <p>○紙版画で物語の世界を凸によってできる模様の世界を表現すること</p> <p>題材のめあて でこぼこで、物語の世界をつくろう!</p>	<p>☆振り返り(意識)</p> <p>「さかな、色だけでなく、虹色の魚ができそうだよ!</p>	<p>【継続的に児童の学習状況を確認する】</p> <p>1時間目は記録に残す評価はしないが、思考・判断・表現(発想・構想)の視点で児童の活動の姿を捉え、指導に生かす。それを踏まえて5時間目に発想・構想について評価する。</p>	<p>発想 構想</p> <p>観察 対話</p>	<p>――</p> <p>――</p> <p>――</p> <p>――</p>	
		<p>○こすり出しの技法を知り、教室の様々な場所や物の模様を紙に写し取る活動を通して、</p>	<p>☆材料を工夫するといろいろな模様ができそう</p>		<p>――</p> <p>――</p>	<p>――</p> <p>――</p>	

# 小学校・図画工作

<p>試す・広げる</p>	<p>様々な模様の美しさや面白さに気付かせる。 ○活動を振り返らせるとともに次時よりアイデアスケッチに入ること知らせ、版に用いる凹凸のある材料と刷ることで表れる模様の資料を見比べることで、材料と刷り上がりを関連付けさせる。 ・刷り上がりの美しさや面白さを想像して材料集めに取り組む意欲を高める。</p>	<p>だよ。 ☆段ボールが使いそうだよ。他にどんな材料を使おうかな。楽しみだな。</p>					
<p>2</p>	<p>本時のめあて にじうおの世界をイメージして、かきたい場面を決定しよう ○物語を聞き、ワークシートを使用してイメージを整理してアイデアスケッチに表す活動を通して、表したい場面の様子や海の生き物についてイメージを明確にする。</p>	<p>☆うろこを配ってみんなが虹色になった世界が描きたいな。背景や、にじうお以外の生き物</p>	<p>【評価したことを記録に残す】 指導計画や授業の展開において。評価規準に基づき、評価の結果を記録に残す場面を適切に位置づけて精選する。</p>				
<p>つくる・表す 3 5 6</p>	<p>本時のめあて でこぼこをくふうして かた紙をつくらう！ ○表したいこと、登場する生き物たちを表した版を動かして配置を考える活動を通して、表したいことを生かす動きや構図を工夫させる。 ・材料で自然な交流ができるよう、教室に「どうぞボックス」を設置する。 ○使いたい材料について、随時こすり出しをして確かめ、素材によって何が生まれているかを捉えて工夫させる。</p>	<p>☆貼り方を工夫すると魚が泳いでいる感じが出たよ。 ☆プチプチシートで点々模様ができるよ。クラゲの体に使ってみよう。</p>	<p>知識については、凹凸のある材料を組み合わせている行為を通して、形の感じなどに着目している様子を捉え、造形的な視点で分かっているかどうかを捉える。観察に加え、児童と対話することで、より確かな学習状況を捉えることができる。</p>	<p>知識 観察 対話</p>	<p>発想 構想 観察 対話 ワーク シート</p>		
<p>7 8</p>	<p>本時のめあて 友だちときょう力してはん画をすろう ○版へのインクの付き具合やスポンジローラーのかけ方によって仕上がりが異なることを知り、版の凹凸の効果が表れる適切な刷り方を工夫させる。 ・模様を生かすことができるよう、ばれんは使用せず、指とタオルで丁寧に刷らせる。</p>	<p>☆インクを少な目にして刷ったら、うろこの虹色の部分が素敵になったよ。</p>	<p>発想や構想することに進んで取り組んでいるか、技能を働かせることに進んで取り組んでいるか、鑑賞をすることに進んで取り組んでいるかを題材全体を通して捉える。</p>			<p>態表</p>	
<p>振り返る 9</p>	<p>・自分が表現した場面に該当するを、事前に紙芝居の様に作品裏させる。 本時のめあて 「にじいろのさかな」かんしょう会をしよう ○グループで場面を読み聞かせし合う活動を通して、互いの表現のよさや工夫を味わわせる。 ○うろこ型カードに感想を書き、友だちに贈るよう促す。教師からもカードを渡し、各自魚型ワークシートに貼り付けるよう促す。 ○感想は積極的につぶやき合うよう促す。 ○円形になり、教師の読み聞かせに合わせ、場面該当児童は作品を掲げる活動を通して、完成の喜びを共有させる。 ・製作した感想を、うろこ型カードに記入し、拡大したにじうおにうろことして貼り付け、後日作品とともに掲示する。</p>	<p>「にじいろのさかな」の世界がたくさんできあがったよ。教室が海の中になったね。</p>	<p>鑑賞 観察 対話 作品 カード</p>	<p>態鑑 観察 対話 作品 カード</p>			

※「はばたく群馬の指導プランⅡ」に基づく授業を参考にして作成

指導計画 体育科 第6学年 単元名「A体づくり運動 イ動きを高める運動」(全5時間計画)

目標		知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等						
		○体力の必要性や体の動きを高めるための運動の行い方を理解するとともに、自己の課題を踏まえ、直接的に体力向上をねらいとして体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを持続する能力を高める運動をすることができるようにする。	○自分の体力に応じた運動を取り上げ、動きを高める運動の行い方を工夫し、それらを仲間に伝えることができるようにする。	○安全に気を付け友達と協力しながら、進んで運動に取り組むことができるようにする。						
		単元の目標は、学習指導要領解説本文等を参考に、各学校において授業で育成を目指す資質・能力を明確化する。			表記に注意					
評価規準		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度						
		①-1 体力の必要性や体の動きを高めるための運動の行い方を理解している。 ①-2 自己の課題を踏まえ、直接的に体力向上をねらいとして体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを持続する能力を高める運動をすることができる。	②自分の体力に応じた運動を取り上げ、動きを高める運動の行い方を工夫し、それらを仲間に伝えている。	③安全に気を付け友達と協力しながら、進んで運動に取り組もうとしている。						
		単元の評価規準は、児童の実態や指導計画における児童の活動等を考慮しつつ、学習指導要領解説本文等を活用し、児童の学びの姿としてより具体化したものにする。			「運動領域」においては、知識と技能は別々に評価する場面も想定されることから、評価規準を別々に設定することもある。					
過程	時間	◎ねらい・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">めあて</span> ・○主な学習活動		☆振り返り (意識)	知*	思	態	◇評価規準 〈方法・観点〉		
つかむ	1	◎体力とは何かを理解し、体力を高める運動の学習内容を知り、自分の体力を高めていこうとする意欲を持たせる。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">動きを高める運動をしよう。</span> 単元のめあて <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「体力向上メニュー」を作ろう。</span> ○体の動きを高める運動を行う。 ・体の柔らかさを高める運動…長座前屈等 ・巧みな動きを高めるための運動…棒の移動とり等 ・力強い動きを高めるための運動…手押し車等 ・動きを持続する能力を高めるための運動…3分間走等		☆体力にはいろいろな力があることがわかった。これからの学習で自分の体力について知り、「体力向上メニュー」を作って、自分の弱い力を伸ばしていきたい。			③	◇用具の安全や活動スペースを確保し、仲間と声を掛け合いながら進んで動きを高める運動に取り組もうとしている。 (観察)		
	1	◎体の柔らかさ・巧みな動きを高める運動を行い、動きを高めるためのポイントに気付くことができるようにする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">体の柔らかさ・巧みな動きを高めるための「動きを高めるポイント」を見付けよう。</span> ○体の柔らかさを高めるための運動 ・体をねじる運動→2組でボールを使ったねじる運動等 ○巧みな動きを高めるための運動 ・短縄跳び→長縄・短縄の同時跳び等		☆動きを高めるために用具を使ったり、人数を増やしたりして運動をすることがポイントということがわかった。このポイントを意識して色々な運動を試していきたい。	①-1			◇体の動きを高める運動を行い、動きを高めるポイントについて、分かったことを言ったり書き出したりしている。(観察・学習カード)		
追究する	理解していることを会話やワークシートの記述から評価する。 ※ポイントを見付けている場面や理解していることを表出している場面は、(思考・判断・表現)として評価することもできますが、この時間では、本時の中で見付けた動きを高めるポイントを理解しているかどうかを中心に授業の後半で評価します。									
	2	◎力強い動き・動きを持続する能力を高めるための運動を行い、それらのポイントに気付くことができるようにする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">力強い動き・動きを持続する能力を高めるための「動きを高めるポイント」を見付けて実践しよう。</span> ○力強い動きを高めるための運動 ・手押し車→一歩が大きい手押し車等 ○動きを持続する能力を高めるための運動 ・ランニング→ペアジョギングやまねっこジョギング等		☆動きを持続する能力を高めるポイントとして、時間・距離・ペースなどのポイントがあることがわかった。これらを考慮して、持久走の練習に生かしていきたい。	①			◇体の動きを高める運動を行い、動きを高めるポイントに気付き、自己の課題を踏まえた体力を高める運動ができる。 ・二人組で互いに手押し車で移動できる。 ・無理のない速さで5～6分程度の持久走ができる。 (観察・学習カード)		
		動きを高めるポイントを踏まえて、運動している姿を評価します。 ※指導と評価の一体化を図れるよう。具体的な児童の姿を評価するための補助シートを準備するなどして、活動中の児童への声かけが、動きを高めるポイントの理解や動きの改善につながるように工夫しましょう。 例…足裏全体を使って進んでいるから、しっかり力が伝わっていて良いですね。等								

3 本 時	<p>◎自分の体力に合った動きを高めるための運動の行い方を見付け、その工夫を仲間に伝えることができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">自分の動きを持続する能力を高めるための工夫を友達と伝え合おう</div> <p>○「4分間ジョギング」 ・ペアジョギング、まねっこジョギング等の工夫を考える。 ○「マイシャトルラン(30回)」 ・自分の体力に合わせて折り返す距離を決めて走り、その工夫を伝え合う。</p>	☆マイシャトルランでは25m間隔を選択した。1学期の記録が50回で、ペースを上げた練習をしたかったので、5m増やした。正直きつかったけど、体力を高める運動にはなかったと思う。	② <b>小学校・体育</b> ◇自分の体力に応じた運動の行い方を見付け、その運動の工夫やポイントを仲間に伝えている。  (観察・学習カード)
ま と め	<p>1 ◎単元のまとめとして、自分の課題を踏まえた体の動きを高める運動の「体力向上メニュー」を作成し、日常生活でも運動を行おうとする意欲を持てるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">「体力向上メニュー」を考えよう。</div> <p>○「体力向上メニュー」を考える。 ・前時までに行ってきた運動と「動きを高めるポイント」を考慮して、楽しみながら体力向上を行えるような「体力向上メニュー」を考え、実施する。</p>	☆これからの体育の時間や休み時間に自分たちで考えたメニューを実施して、楽しみながら体の動きを高めていきたい。	③ ◇自分の課題を踏まえた「体力向上メニュー」を作成し、これからの生活に生かそうとしている。 (観察・学習カード)  ◇体の動きを高める運動を行い、動きを高めるポイントに気付き、自己の課題を踏まえた体力を高める運動ができる。 (観察・学習カード)

「思考・判断」と「表現」に分けて見取ることが想定されます。  
「思考・判断」においては、設定された活動をもとに、自分なりに工夫しようとしていることが行動や言葉として表出されていることを見取ることが想定されます。  
例・・・自分で折り返す距離をマークで決めている。等  
「表現」においては、友達のよい動きや自分が工夫した動きを、言葉や動作、身振りなど多様な方法を用いて友達や教師に伝えたり、カードに書き出したり姿で見取ることが想定されます。  
例・・・〇〇さんは、腕をリズムよく振れているところがいいね。自分は、頭の位置を動かさないようにしたら楽に走れるようになりました。等

【主体的に学習に取り組む態度】については、愛好的態度、公正・協力、責任・参画、共生、健康・安全の各項目に分けて見取ることになります。  
特に、共生については、新たに加えられた項目になります。共生に関する態度は、自分と課題の解決が異なる場合においても、違いを認め、自分事として引き取ろうとしている姿で見取ることが想定されます。  
例・・・自分が考えた体力向上メニューについて、仲間の違った意見をしっかりと聞き、仲間の意見を踏まえて試してみたら、自分が最初に考えたメニューを修正しようとしたり、今後試してみようとしたりしている姿を見取る。等

技能や主体的態度のように、習得や活用等の段階を踏まえ一定期間を置くなど、指導と評価の時期をずらして評価を行う場合も考えられる。したがって、重点内容と本時の評価の観点が必ずしも一致するものではないことに留意する必要がある。

\*知・・・「知識・技能」、思・・・「思考・判断・表現」、態・・・「主体的に学習に取り組む態度」

評価の観点は、1時間につき1～2程度にするなど、評価をするにあたり無理のない計画を立てるようにする。  
ただし、重点項目以外は、評価しないということではなく、必要に応じて随時記録に残しておくことが大切である。  
また、単元の前半に設定する評価については、その結果をもって単元全体の評価とするのではなく、必要に応じて単元終了時まで指導と評価を繰り返すことが大切である。

体育・保健体育の評価については、これまでと大きく変わるわけではない。これまでの評価の仕方について、子どもの資質・能力の向上につながっているか、再確認し、3つの柱で評価を見直すことが大切である。  
評価が先にあるのではなく、まず指導があって、児童生徒の学習過程や結果の状況と評価規準とを重ね合わせながら適切に評価することが重要である。

※評価をするための補助シート例

<p><b>単元の評規準を踏まえた単位時間の評価規準</b> 体の動きを高める運動を行い、動きを高めるポイントに気付き、自己の課題を踏まえた体力を高める運動ができる。</p>	十分満足できる児童の姿
<p>・力強い動きをするには、腰を低く構えて足裏全体を使うとよいことを理解している。</p>	<p>・腰を低く構えるためのコツ(膝を曲げる等)や足裏全体を使うコツ(背筋を伸ばす等)など、詳しく話したり書いたりしている。</p>
<p>・二人組で互いに手押し車で移動できる。</p>	<p>・膝を曲げて腰を低くして構え、足裏全体を使って手押し車ができる。 ・体格に関係なく、相手が変わっても手押し車ができる。</p>

※「はばたく群馬の指導プランⅡ」に基づく授業を参考に作成

指導計画 家庭科 第6学年 題材名「思いを形に 生活に役立つ布製品」(全14時間計画)

目標	<p>(1) トートバッグを製作することを通して、製作に必要な材料やミシンの安全な取り扱い方が分かり、トートバッグの製作手順について理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。</p> <p>(2) トートバッグの製作計画や製作について、<u>① 問題を見いだして課題を設定し、② 様々な解決方法を考え、③ 実践を評価・改善し、④ 考えたことを表現する。</u></p> <p>(3) 家族の一員として、生活をよりよくしようと、トートバッグの製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返ったりして生活を工夫し、実践しようとする。</p>				
評価規準	<p>(1) 製作に必要な材料やミシンの安全な取り扱い方が分かり <u>①</u>、トートバッグの製作手順について理解しているとともに、適切にできる <u>②</u>。(知識・技能)</p> <p>(2) トートバッグの製作計画や製作について、<u>① 問題を見いだして課題を設定し、② 様々な解決方法を考え、③ 実践を評価・改善し、④ 考えたことを表現する</u>などして課題を解決する力を身に付けている。(思考・判断・表現)</p> <p>(3) 家族の一員として、生活をよりよくしようと、トートバッグの製作について、<u>① 課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、② 振り返って改善したりして、③ 生活を工夫し、実践しようとしている。</u>(主体的に学習に取り組む態度)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>&lt;評価規準の表記について&gt;</p> <p>知識・技能：指導事項Aについて、その文末を「～について理解している」「～について理解しているとともに、適切にできる」として、評価規準を作成する。</p> <p>思考・判断・表現：指導事項Iについて、その文末を教科の評価の観点及びその趣旨に基づき、「～について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている」として、評価規準を作成する。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度：次の3つの側面で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 粘り強さ(知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面)</li> <li>② 自らの学習の調整(その中で自らの学習を調整しようとする側面)</li> <li>③ 実践しようとする態度</li> </ul> <p>文末を、「～について課題の解決に向けて主体的に取り組んだり(①、振り返って改善したり(②)して、生活を工夫し、実践しようとしている(③)」として、評価規準を作成する。</p> </div>				
過程	時間	○ねらい めあて	☆振り返り(意識)	◇評価規準<方法・観点>	
つかむ	1	<p>○トートバッグについて、日常生活を振り返って問題を見だし、題材を通した学習課題と学習計画【作りたいバッグの大きさや形を決める、布の用意、裁断、縫う順序等】を立てる活動を通して、これからの学習への意欲をもたせる。</p> <p>学習課題を立て、見通しをもとう。</p>	<p>☆トートバッグは、すぐに物を出し入れできて、洗濯できるから便利だと思った。</p> <p>☆使いやすい大きさのトートバッグが作れたら、うれしい。</p> <p>☆ミシンの使い方を復習して、まっすぐ縫いたい。</p>	<p>◇生活を豊かにするためのトートバッグの製作について問題を見いだして課題を設定している。(思①) &lt;ワークシート、観察&gt;</p>	<p>◇重点を置く評価方法を先に書く。</p>
<p>題材の課題：自分の思いを生かした便利なトートバッグを作るには、どうしたらよいか。</p>					
	2 3	<p>自分が作りたいバッグについて考えよう。</p> <p>○不織布を使って、トートバッグの形や大きさ等を決める活動を通して、自分が作りたいバッグについて、製作計画を立てさせる。</p>	<p>☆不織布を使って、バッグの大きさを考えると、ゆとりが必要なのが分かった。</p> <p>☆まちを付けた方がよいとアドバイスしてもらって、やってみようと思った。</p> <p>☆自分の気に入った布で、図書バッグを作りたい。</p>	<p>◇ゆとりの必要性や製作に必要な材料・用具、製作手順を理解している。(知) &lt;ワークシート、観察&gt;</p>	<p>◇トートバッグの製作計画について考え工夫している。(思②) &lt;製作計画&gt;</p>
<p>・材料を準備させる。(市販の布を購入する、学校教材を注文する、家にある布を持参する、家にある布製品をリサイクルする等)</p>					
追究する	4 5	<p>仕上がり大きさに印を付けて、布を裁とう。</p> <p>○トートバッグの仕上がり大きさに印を付け、布を裁断させる。</p>	<p>☆トートバッグの大きさが決まり、布を裁断できた。</p> <p>☆トートバッグの布を裁断する時は、縫い代が必要なのが分かった。</p>	<p>◇ミシンの安全な取扱い方が分かり、適切にできる。</p>	<p>◇トートバッグの製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。(主①) &lt;振り返りカード・観察&gt;</p> <p>・便利なトートバッグを製作するために、友達に確認するなどして、自分なりに解決しようとしている場合を判断する。</p>
6	<p>使いやすい位置にポケットを付けよう。</p> <p>○ポケットを付けることができるようにさせる。</p>	<p>☆使いやすい大きさのポケットが付けられた。</p>	<p>指導に生かす評価</p>		



	<p>7 8</p> <p>どのようにわきを縫えばよいか。</p> <p>○ほつれやすい布端の始末を るために、わきは袋縫いに きるようにさせる。</p>	<p>・丈夫なトートバッグの縫い方につ いて理解しているか、ワークシ ートの記述から評価する。 ・丈夫に縫えているか、作品の仕上 がりをみて評価する。</p> <p>☆布端がほつれないようにす るためには、他にどのよう な縫い方があるか知りたい。</p>	<p>◇丈夫なトート バッグの縫い 方を理解し、適 切にできる。 ・ポケットの付 け方 ・布端の始末の 仕方 ・出し入れ口の 縫い方 ・持ち手の付け 方 (知・技)〈作品、 ペーパーテス ト〉</p>	<p><b>小学校・家庭</b></p>	<p>◇トートバッグの 製作について、課 題の解決に向け た一連の活動を 振り返って改善 しようとしてい る。(主②)〈振り 返しカード・観察 〉</p>
	<p>9 10</p> <p>どのように出し入れ口を縫えばよいだろうか。</p> <p>○ほつれないように出し入れ口 を縫うために、出し入れ口は 三つ折り縫いが適しているこ とを理解させる。</p>	<p>☆出し入れ口は、二つ折りでは なく、三つ折り縫いで縫 うことが分かった。 ☆アイロンを掛けて、布を押 さえてから縫うと、三つ折 り縫いが上手にできた。</p>			
	<p>11 12</p> <p>どうしたら丈夫な持ち手が付けられるだろうか。</p> <p>○持ち手を付ける位置を確かめ て、正しい位置に丈夫な持ち 手を付けることができるよう にさせる。</p>	<p>☆持ち手を2度縫って、丈夫 にした。 ☆布より厚い平ひもを付ける 時、ミシン縫いが難しかった けれど、丈夫に付けられた。</p>	<p>◇ミシンの安全 な取扱い方が 分かり、適切に できる。</p>		<p>・振り返りカードの記述内容や行動観察 から判断する。 ・製作計画や縫い方などの製作について 適切に自己評価して、次の学習に向け て取り組もうとしているか評価する。</p>
	<p>13</p> <p>オリジナルトートバッグを完成させよう。</p> <p>○オリジナルトートバッグの 完成に向けて、飾り等につい て考え、工夫できるように させる。</p>	<p>☆フェルトを使って、イニシ ヤルを入れられた。 ☆まちを付けて、バッグに厚 みが出たので、物がたくさ ん入ると思う。</p>	<p>記録に残す評価</p>		
<p>・完成したトートバッグを日常生活で活用させる。</p>					
<p>ま と め る</p>	<p>14</p> <p>実践発表会をして、 自分の生活に生かせることを考えよう。</p> <p>○製作を通して学んだことや製 作したトートバッグを活用し て確かめたこと等を伝え合 い、今後の自分の生活に生か すことができるような工夫や 応用の仕方を考えさせる。</p>	<p>☆布製品を買う時、縫い方を 確認したりや布の材質を見 たりして選びたい。 ☆入りたい本の大きさに合わ せてトートバッグを作った ので、今度は、エコバッグを 作ってみたい。</p>		<p>◇トートバッグの 製作の実践を、 評価したり改善 したりしている。 (思考③)〈発 表・ワークシ ート〉 ◇トートバッグの 製作についての 課題解決に向け た一連の活動に ついて、考えた ことを分かりや すく表現してい る。(思④)〈発 表・ワークシ ート〉</p>	<p>◇トートバッグの 製作について、工 夫し、実践しよう としている。(主 ③)〈振り返りカ ード〉</p>

・ゴシック体は、評定に用いる評価（記録に残す評価）

※「はばたく群馬の指導プランⅡ」に基づく授業を参考にして作成

指導計画 外国語科 第5学年 単元名「I want to go to Italy.」(全7時間計画)

目標	お互いに興味をもっている国について知るために、その国について短い話を聞いてその概要が分かったり、行きたい国やそこでしたいことなどについて伝え合ったりできる。		
	知識・技能	言語材料 (文字・表現)	目的等
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<知識> 国の言い方や <u>Where do you want to go? Why? I want to (see/ go to/ visit/ buy) ~ It's ~ delicious/ fun/ great</u> の表現について理解している。 <技能> 国名やしたいことを聞き取る技能を身に付けている。	相手が興味のある国を知るために、 <u>相手が紹介する国</u> について、興味がある理由も含めて、短い話の概要を聞き取っている。 事柄・話題	相手が興味のある国を知るために、 <u>相手が紹介する国</u> について、興味がある理由も含めて、短い話の概要を聞き取るとしている。
話すこと・やり取り	<知識> 国の言い方や <u>Where do you want to go? Why? I want to (see/ go to/ visit/ buy) ~ It's ~ delicious/ fun/ great</u> の表現について理解している。 <技能> 国名や <u>Where do you want to go? Why? I want to (see/ go to/ visit/ buy) ~ It's ~ delicious/ fun/ great</u> の表現を使って自分の思いや考えを伝え合う技能を身に付けている。	自分が興味のある国を相手にわかってもらうために、 <u>その国</u> について興味がある理由も含めて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを伝え合っている。 目的等	相手に興味のある国をわかってもらうために、 <u>その国</u> について興味がある理由も含めて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。 事柄・話題

過程	時間	○ねらい めあて	☆振り返り (意識)	評価			
				知技	思判表	態度	◇評価規準 <方法(観点)>
つかむ	1	◎総合学習『世界へつながるストリート2020 Tokyo』(ポスターを作って世界の国々を学校みんなに紹介する活動)の一環として、興味を持っている国について知らせよう」という単元の課題をつかませる。 ○キーワードゲームやミッシングゲームで国名を聞いたり言ったりする活動を通して、国名の言い方に触れさせる。 国名の英語の言い方を知ろう。	☆国名の言い方がわかって言うことができた。 ☆いろいろな国について興味を持てた。				※本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。 <教師が指導改善のためのポイント例> 国名について言うことや聞き取りが不十分な児童がいる場合、第2時のSmall Talkで国名を十分に扱うようにする。
【単元の課題】オリンピックで注目している国について、わかりやすく伝え合おう。				【評価したことを指導に生かす】 「聞」「や」の印がない箇所は各単位時間において目標に向けて指導は行うが、記録に残す評価は行わない。(形成的評価)			
追究する	2	○カードゲームで繰り返し聞いたり言ったりする活動を通して、どの国に行きたいかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しませる。 どの国に行きたいか尋ねたり答えたりしよう。	☆どこの国に行きたいかを尋ねたり、答えたりする言い方がわかった。 ☆どこかを聞きたいときには where を使うことがわかった。				<教師が指導改善のためのポイント例> Where do you want to go ? が言えない児童がいる場合は、次時のウォームアップでリズムを用いて繰り返し言わせて、音声に慣らすようにする。
	3	○総合的な学習の時間や社会で調べたことをもとに、したいことを考えさせる活動を通して、したいことを言う表現に慣れ親しませる。 行きたい国でしたいことを言ってみよう。	☆行きたい国でしたいことを言うことができた。 ☆外国でやってみたいことがたくさん出てきた。				<教師が指導改善のためのポイント例> 行きたい国やその国でしたいことが思い浮かばない児童が多い場合には、扱う国を広げる。

小学校・外国語

4	<p>○国当てクイズを通して、何をしたいか尋ねたり答えたりさせる。</p> <p>クラスのみみんなが行きたい国を調べよう。</p>	<p>☆行きたい国でしたいことを尋ねたり答えたりすることができた。</p> <p>☆○○さんが□□で△△したいことがわかった。</p>	聞	<p>◇聞くこと(知・技)</p> <p>・行きたい国やその国でしたいことを聞き取っている。&lt;ワークシート&gt;</p> <p>◇話すこと(やり取り)(知・技)</p> <p>・行きたい国やその国でしたいことを伝え合っている。&lt;観察&gt;</p>
5	<p>○友達と行きたい国でしたいことやできることを言う会話活動を通して、その国の良さを伝え合わせる。</p> <p>行きたい国や興味のある国でできることを言って、友達と旅行に行く約束をしよう。</p>	<p>☆You can を使って友達を旅行に誘えた。</p> <p>☆□□の国では△△ができることがわかった。</p>	聞	<p>&lt;教師が指導改善のためのポイント例&gt;</p> <p>・行きたい国やそこでできることを聞き取れていない児童がいる場合は、再度、基本的な表現を確認し、やり取りさせる。</p>
6	<p>○友達を旅行に誘う活動を通して、国のよさや特徴を表す言葉を加えながら、相手にわかりやすく伝え合わせる。</p> <p>相手により伝わりやすくなるように、情報を加えて、友達を旅行に誘おう。</p>	<p>☆相手に伝わりやすくなるように、情報を加えて友達を旅行に誘うことができた</p> <p>☆ Nice.や繰り返しを使って、会話をしようと頑張った。</p> <p>☆○○さんを旅行に誘ったら□□のよさが分かってくれてうれしかった。</p>	聞	<p>◇聞くこと(思・判・表)</p> <p>・相手が興味のある国を知るために、相手が紹介する国について、興味がある理由も含めて、短い話の概要を聞き取っている。</p> <p>◇話すこと(やり取り)(思・判・表)</p> <p>・相手に興味のある国をわかってもらうために、その国について興味がある理由も含めて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを伝え合っている。</p> <p>&lt;観察・ワークシート・振り返りカード&gt;</p>
まとめ	<p>○グループ内で、話し手は聞き手に配慮しながらわかりやすく注目している国について伝え、聞き手はそれについて質問したり一言コメントを言ったりする活動を通して、それぞれの思いを伝え合い、理解し合わせる。</p> <p>聞いている人が興味を持てるように、注目している国について、調べたことをわかりやすく伝え合おう。</p>	<p>☆聞いている人が興味を持てるように、自分が注目している国のよさを伝えることができた。</p> <p>☆質問したりコメントを言って、友達の発表を聞くことができた。</p> <p>☆○○さんの話を聞いて、□□の国に行ってみたくなった。</p>	聞	<p>◇聞くこと(主体的)</p> <p>・相手が興味のある国を知るために、相手が紹介する国について、興味がある理由も含めて、短い話の概要を聞き取るようにしている。</p> <p>◇話すこと(やり取り)(主体的)</p> <p>・相手に興味のある国をわかってもらうために、その国について興味がある理由も含めて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。</p> <p>&lt;観察・ワークシート・振り返りカード&gt;</p>

【評価したことを記録に残す】

- ・「聞」「や」印は評価に残す。
- ・児童ができるようになってから評価を行うようにする。
- ・一つの言語活動において複数の領域を評価する。
- ・「思考・判断・表現」は言語活動の中で評価する。
- ・「主体的に学習に」は他の2つの観点と一体化して評価する。

この単元では6時間目の言語活動に続けて7時間目の言語活動を設定しているため、「思考・判断・表現」を連続して評価している。

※「はばたく群馬の指導プランⅡ」に基づく授業を参考にして作成

<b>特別の教科 道徳（小・中）</b>
----------------------

## 小・中学校「特別の教科 道徳」に係る評価について

### 1 児童生徒の評価

#### ○新学習指導要領（特別の教科 道徳）

児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。  
ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

#### <基本的な考え方>

- 数値による評価ではなく、記述式とすること
- 個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること
- 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行うこと
- 学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること
- 調査書（いわゆる内申書）に記載せず、中学校・高等学校の入学者選抜の合否判定に活用することのないようにする必要

<授業では、児童生徒の何を見とるのか。>

- \* 道徳科のねらいは、道徳性を養うことだが、道徳性を評価することは困難である。道徳科では、学習状況や道徳性に係る成長の様子を評価する。つまり、教師はねらいを設定して授業に臨むが、そのねらいをゴールとして児童生徒の評価は行わない。従って、「授業のねらい」と「評価の視点」にずれが生じる。

#### <道徳科の授業における児童生徒の評価の視点>

道徳的価値の理解に基づく

- ・児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか。
  - ・道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。
- 自己の（人間としての）生き方について考えを深める

- \* これらの点を重視し、道徳科の学習活動に着目して評価する。

道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習。

- \* 授業の見取りを記録に残し、大きくくりなまとまりを踏まえて記述する。

### 2 授業に対する評価

#### <授業に対する評価> 道徳科の学習指導課程や指導方法に関する評価の観点の例

- ア 学習指導過程は、道徳科の特質を生かし、道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、自己の（人間としての）生き方について考えを深められるよう適切に構成されていたか。また、指導の手立てはねらいに即した適切なものとなっていたか。
- イ 発問は、児童（生徒）が（広い視野から）多面的・多角的に考えることができる問い、道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いなど、指導の意図に基づいて的確になされていたか。
- ウ 児童（生徒）の発言を傾聴して受け止め、発問に対する児童の発言などの反応を、適切に指導に生かしていたか。
- エ 自分自身との関わりで、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考えさせるための、教材や教具の活用は適切であったか。
- オ ねらいとする道徳的価値についての理解を深めるための指導方法は、児童（生徒）の実態や発達の段階にふさわしいものであったか。
- カ 特に配慮を要する児童（生徒）に適切に対応していたか。

**総合的な学習の時間（小・中）**

**単元の評価規準の作成について**

◎学習評価の進め方

評価の進め方	留意点
1 単元の目標を作成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校において定める総合的な学習の時間の内容（探究課題及び育成を目指す具体的な資質・能力）をよりどころにする。</li> <li>○ 中核となる学習活動をもとに単元の目標を作成する。</li> <li>○ 単元の目標を踏まえ、「単元の評価規準」を作成する。</li> </ul>
2 単元の評価規準を作成する	
3 「指導と評価の計画」を作成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1, 2を踏まえ、具体的な学習活動に沿って、評価場面や評価法法等を計画する。</li> </ul>
授業を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3を踏まえて評価を行い、児童生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。</li> </ul>
4 総括する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習の状況や成果などについて、児童のよい点、学習に対する意欲や態度、進歩の状況などを踏まえて、評価結果を総合する。</li> </ul>

- ・単元：課題の解決や探究的な学習活動が発展的に繰り返される一連の学習活動のまとまり
- ・単元の目標：どのような学習を通して、児童生徒にどのような資質・能力を育成することを目指すのかを明確に示したもの

○単元の評価規準の作成

手順① 単元の目標を作成する。

※単元の目標の示し方の例（一文の中に学習活動と3つの資質・能力を入れる）

～（学習活動）することを通して、…（知識及び技能）に気付き、…（思考力、判断力、表現力等）について考えるとともに、…（学びに向かう力、人間性等）を自らの生活や行動に生かそうとする。

手順② 単元の目標に示された資質・能力を踏まえ、目指すべき学習状況としての児童生徒の姿を想定する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①概念としての知識 ②" ③技能	①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現	①自分自身に関すること ②他者に関すること ③社会に関すること

手順③ 文末を以下のように変えることで評価規準とする。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
～について理解している。 ～を身に付けている。	～している。	～しようとしている。

※具体的な学習活動に沿って、評価場面や評価方法等を計画する。

★指導要録の記述について

これまでどおり、実施した「学習活動」「評価の観点」「評価」の3つの欄で構成し、その児童（生徒）のよさや成長の様子など顕著な事項を文章で記述する。

**総合的な学習の時間（小・中）**

◆単元の評価規準作成と指導と評価の計画の例

・探究課題 「身の回りの高齢者とそのくらしを支援する仕組みや人々」

・単元名 「地域の絆を再生しよう」（小学校 第6学年、全50時間）

・単元の目標

少子高齢化や核家族化を背景に、さみしさを抱えながらくらす高齢者の孤独の解消に向けて活動することを通して、高齢者の暮らしを支える取組や人々の思いに気付き、高齢者のくらしを支える「地域の茶の間（地域の人々が集い交流できる場）」の在り方について考えるとともに、学んだことを自らの生活や行動に生かそうとする。

・評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 高齢者のくらしを支える取組や人々の思いを基に、「地域の茶の間」は、地域の人と思いを共有し、協働でつくることで持続可能なものとなること <b>を理解している。</b> (知識①)</p> <p>② 高齢者とそのくらしについて学んだことが自分の生活と深く関わっていること <b>を理解している。</b> (知識②)</p> <p>③ 「地域の茶の間」を開催したり、モデルケースを調査・体験したりして収集した情報と情報との関係について、図や文章でまとめる方法を <b>身に付けている。</b> (技能)</p>	<p>① 地域や高齢者とそのくらしについて、理想との隔たりから <b>課題をつくっている。</b> (課題の設定)</p> <p>② 高齢者の孤独の解消のために必要な情報を、手段を選択して <b>収集している。</b> (情報の収集)</p> <p>③ 持続可能な「地域の茶の間」をつくるために必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら解決 <b>に向けて考えている。</b> (整理・分析)</p> <p>④ 伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で <b>表現している。</b> (まとめ・表現)</p>	<p>① 活動を通して、自分と身の回りの高齢者との関わりを <b>見直そうとしている。</b> (自分自身に関すること)</p> <p>② 「地域の茶の間」の体験を通して得た知識や自分と違う友達の考えを生かしながら、<b>協働して課題解決に取り組もうとしている。</b> (他者に関すること)</p> <p>③ 課題解決の状況を振り返り、あきらめずに高齢者の孤独の <b>解消に向けて取り組もうとしている。</b> (社会に関すること)</p>

**総合的な学習の時間（小・中）**

・指導と評価の計画（抜粋）

過程（時間）	ねらい・学習活動	知	思	態	備考
持続可能な「地域の茶の間」のモデルケースを調査・体験しよう （10時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域の茶の間」の活動を振り返り、活動の意味や価値を考えることで、課題を再設定する。</li> <li>・「地域の茶の間」を持続可能な形で運営しているモデルケースの調査・体験活動を行い、必要な情報を収集する。</li> <li>・モデルケースの特徴を整理し、その背景を分析することで、高齢者のくらしを支える人の工夫や思いに気付く。</li> <li>・自分たちが開催した「地域の茶の間」とモデルケースの調査・体験活動を基に、持続可能な「地域の茶の間」の在り方について考え、概念的知識を形成する。</li> </ul>	①	① ②		思：発言内容 作文シート  知：作文シート 思：行動観察 作文シート  技：ワークシート  知：発言内容 作文シート 思：発言内容 態：発言内容 行動観察
高齢者だけではなく地域の人に必要とされる「地域の茶の間」をつくろう （15時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概念的知識を基に、課題を再設定する。</li> <li>・必要な情報を調べながら、「地域の茶の間」の計画（場所や日時、プログラム等）を立てる。</li> <li>・学習課題に照らし、「地域の茶の間」の計画を修正・改善する。</li> <li>・計画を修正・改善しながら複数回の「地域の茶の間」を開催する。</li> </ul>		② ④	②	思：発言内容 行動観察  態：発言内容 行動観察  思：行動観察

**特別活動**

◎指導要録における特別活動の記録(小学校の例)

各学校で定めた評価の観点と指導要録に記入した上で、各活動・学校行事ごとに、十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に、○印を記入する。指導と評価に当たっては、各学校で「十分に満足できる活動の状況」とは「児童のどのような姿」を指すのかを検討し、共通理解を図ってその取組を進めることが求められる。

全学年で共通した、各学校で定めた**特別活動の評価の観点**を記入する。

評価の観点の変更がある場合を想定して、余白をとっておく。

特別活動の記録								
内容	観点	学年	1	2	3	4	5	6
学級活動	よりよい生活を築くための知識・技能		○		○	○	○	
児童会活動	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現			○			○	
クラブ活動	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度		斜線	斜線	斜線	○		
学校行事	余白		○	○			○	

児童会活動は、全児童で組織する児童会による異年齢集団活動なので、低学年でも活動の状況を適切に評価する。

クラブ活動を実施していない学年については、斜線を引く。

例えば、指導要録の「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄に「自然の教室で、めあてに向かって自分の役割を、責任をもって行うとともに、友達と協力して野外活動に取り組んでい

＜評価の工夫について＞

- ・学級活動では、児童の振り返りカードや活動の様子を記録する**補助簿の活用**など、記録を残して評価に生かす工夫を。
- ・その他の活動や学校行事では、担任以外の教師が指導することも多いので、子どもたちのよさや可能性を**多面的・総合的に評価**できるよう、**評価体制を確立**して密に情報交換を行うなどの工夫を。

**特別活動の評価の観点について**

「特別活動の目標」と改善等通知(H31.3.29)を確認し、自校の実態に即して評価の観点を作成する。その際、特別活動の特質や学校として重点化した内容を踏まえて、例えば「主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度」のように**具体的な観点**を設定することが考えられる。

【特別活動における「評価の観点及びその趣旨」をもとにした例】

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法について考え、話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。	生活や社会、人間関係をよりよく築くために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとしている。
自己の生活の充実・向上や自分らしい生き方の実現に必要なことについて理解している。		
よりよい生活を築くための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。		

\*特別活動における資質・能力の視点(「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」)をもとに重点化を図った例

集団や社会に参画するための知識・技能	協働してよりよい生活や人間関係を築くための思考・判断・表現	主体的に目標を立てて共によりよく生きようとする態度
多様な他者と協働し、集団の中で役割を果たすことの意義や、学級・学校生活を向上する上で必要となることを理解している。	多様な他者と協働して、よりよい生活や人間関係を築くために、集団や個人の生活上の課題について話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。	学級や学校の一員としてのこれまでの自分を振り返り、なりたい自分に向けて目標をもって努力し、他者と協働してよりよく生きていこうとしている。
よりよい生活づくりのための話し合いの手順や合意形成の図り方などの技能を身に付けている。		

\*社会参画に重点化を図った例

多様な他者と協働するために必要な知識・技能	集団や社会をよりよくするための思考・判断・表現	主体的に集団活動や生活をよりよくしようとする態度
学級・学校生活を充実するために主体的に参画することの意義や、そのための話し合いの手順を理解している。	学級・学校生活を充実・向上のために課題を考え、話し合い、集団としての解決方法を合意形成を図って決定したり、自分の実践目標を意思決定したりしている。	学級・学校の生活の改善・充実を図るために、多様な他者のよさを生かし、協働して実践しようとしている。 なりたい自分を目指し、これまでの自分を振り返り、これからの集団活動や生活に生かそうとしている。
学級会等における合意形成の図り方などの技能を身に付けている。		

- 例示を参考に各校の評価の観点を作成し、指導要録に記入する。
- 作成した評価の観点のもと、各学校において育成を目指す資質・能力を踏まえて「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。その際、学級活動においては低・中・高学年ごとに発達段階を考慮して評価規準を作成する。



# 外国語の評価の対応関係

令和元年12月18日(水)現在

## 【外国語活動（従前）→外国語活動（新）】

<p>コミュニケーションへの 関心・意欲・態度</p>	<p>コミュニケーションに関心をもち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。</p>	<p>外国語への慣れ親しみ</p>	<p>活動で用いている外国語を聞いたり話したりしながら、<b>外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。</b></p>	<p>言語や文化に関する気付き</p>	<p>外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して、言葉の面白さや豊かさ、多様なもの見方や考え方が<u>あることなどに気付いている。</u></p>
<p>知識・技能</p>		<p>思考・判断・表現</p>		<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	
<p>○外国語を通して、言語や文化について<u>体験的に理解を深めている。</u> ○日本語と外国語の<u>音声の違い等に気付いている。</u> ○<u>外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。</u></p>		<p>身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。</p>		<p>外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、<b>主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</b></p>	

# 外国語の評価の対応関係

## 【外国語活動（従前）→外国語科（新）】

### 【外国語活動（従前）】

**コミュニケーションへの  
関心・意欲・態度**

**外国語への慣れ親しみ**  
国の名前を言ったり聞いたりしている。  
行きたい国について伝え合っている。

**言語や文化に関する気付き**

### 【外国語科（新）】

**知識・技能**  
国の名前を聞き取る技能を身に付けている。（聞くこと）

**思考・判断・表現**  
相手の行きたいについて国を知るために、相手が行きたい理由も含めて、短い話の概要を聞き取っている。（聞くこと）

**主体的に学習に取り組む態度**

